

厚木市立小・中学校の適正規模・適正配置に関するアンケート調査
報告書

令和2年9月

厚木市教育委員会

目次

第1章 調査の概要

1. 調査の目的	1
2. 調査方法	1
3. 回答率	1

第2章 アンケート回答

1. 回答者の属性	
(1) 児童・生徒の保護者	2
(2) 教職員	4
(3) 市民	5
2. 設問 ※()内は各設問における回答対象	
(1) 小規模な学校のメリット (保護者、教職員)	6
(2) 小規模な学校のデメリット (保護者、教職員)	7
(3) 大規模な学校のメリット (保護者、教職員)	8
(4) 大規模な学校のデメリット (保護者、教職員)	9
(5) 小規模な学校における学校運営上の課題 (教職員)	10
(6) 大規模な学校における学校運営上の課題 (教職員)	10
(7) 小学校における望ましい学級数 (保護者、教職員)	11
(8) 中学校における望ましい学級数 (保護者、教職員)	11
(9) 望ましい学級数を選択した理由 (保護者、教職員)	12
(10) 児童・生徒の通学時間 (保護者)	13
(11) 児童・生徒の通学方法 (保護者)	14
(12) 児童の通学時間の許容範囲 (保護者、教職員)	14
(13) 生徒の通学時間の許容範囲 (保護者、教職員)	14
(14) 通学時間が許容範囲を超える場合の配慮 (保護者、教職員)	15
(15) 過去1年間において学校に行った頻度 (市民)	15
(16) 過去1年間において学校に行った理由 (市民)	16
(17) これまで学校が地域で担ってきた役割 (市民)	16
(18) これからの地域において学校に期待する役割 (市民)	17

(19) 学校施設の老朽化により発生する問題（保護者、教職員、市民）……………	17
(20) 学校の建て替えの考え方について（保護者、教職員、市民）……………	19
(21) 学校の適正規模・適正配置の検討に当たり必要な配慮について（保護者、教職員、市民）…	20
① 保護者……………	20
② 教職員……………	26
③ 市民……………	30

3. 自由記述欄 ※各設問における「その他」選択時の記載内容

(1) 望ましい学級数を選択した理由（保護者、教職員）……………	36
(2) 児童・生徒の通学方法（保護者）……………	37
(3) 通学時間が許容範囲を超える場合の配慮（保護者、教職員）……………	37
(4) 過去1年間において学校に行った理由（市民）……………	37
(5) これまで学校が地域で担ってきた役割（市民）……………	37
(6) 地域において、これからの学校に期待する役割（市民）……………	38
(7) 学校施設の老朽化により発生する問題（保護者、教職員、市民）……………	38
(8) 学校の建て替えの考え方について（保護者、教職員、市民）……………	38

[参考資料]厚木市立小・中学校の適正規模・適正配置に関するアンケート調査票

○ 厚木市立小・中学校の教育環境に関するアンケート調査(保護者対象)……………	42
○ 厚木市立小・中学校の教育環境に関するアンケート調査(教職員対象)……………	52
○ 厚木市立小・中学校の地域における役割に関するアンケート調査(市民対象)……………	62

第1章 調査の概要

1. 調査の目的

厚木市立小・中学校の適正規模・適正配置の検討に係る基礎資料として、児童・生徒の保護者、教職員及び市民の皆様の意識を把握するため

2. 調査方法

種別	児童・生徒の保護者※ ¹	教職員※ ¹	市民※ ²
調査対象	市立小学校6年生及び中学校3年生の保護者 ※いずれも各学校1学級の児童・生徒の保護者が対象	市立小・中学校の教職員 ※校長、教頭、学年主任 (小学6年又は中学3年)	18歳以上の市民 (無作為抽出による 1,104人)
依頼方法	学校を通じて調査票を配布	対象者へメール	調査票を郵送
回答方法	アンケートシステム又は調査票で回答	アンケートシステムで回答	アンケートシステム又は調査票で回答
実施期間	令和2年7月22日～8月4日		同年7月29日～8月12日

※1…児童・生徒の保護者及び教職員の皆様を対象にしたアンケート調査名

「厚木市立小・中学校の教育環境に関するアンケート調査」

※2…市民の皆様を対象にしたアンケート調査名

「厚木市立小・中学校の地域における役割に関するアンケート調査」

3. 回答率

種別	配布数	回答数	回答率
児童・生徒の保護者	1,440	697	48.4%
うち小学校	(920)	(454)	(49.3%)
うち中学校	(520)	(243)	(46.7%)
教職員	108	107	99.1%
市民	1,104	406	36.8%
合計	2,652	1,210	45.6%

【報告書の見方】

- (1) 調査結果の構成比の割合については、小数点第2位を四捨五入し、小数点以下第1位までを表記しています。したがって、数値の合計が100.0パーセントにならない場合があります。
- (2) 複数選択が可能な設問については、全ての回答数を合計すると回答者数を超える場合があります。
- (3) 本文や数表の選択肢の表記について、場合により語句を簡略化しています。
- (4) 自由記述については、未記入や判読が困難なものなどを除き、原則として回答いただいた内容をそのまま掲載しています。
- (5) 調査結果における太枠・太字箇所は、設問の選択項目のうち最も回答割合が大きい項目となります。

第2章 アンケートの回答

1. 回答者属性

(1) 児童・生徒の保護者

① 児童・生徒の学年

学年	全体	
	回答数	割合
小学校6年生	454	65.1%
中学校3年生	243	34.9%
合計	697	100.0%

② 児童・生徒の通学している学校

【小学校】

学校名	回答	
	回答数	割合
1 厚木小学校	35	7.7%
2 依知南小学校	12	2.6%
3 北小学校	15	3.3%
4 荻野小学校	20	4.4%
5 三田小学校	8	1.8%
6 清水小学校	25	5.5%
7 小鮎小学校	14	3.1%
8 玉川小学校	18	4.0%
9 南毛利小学校	30	6.6%
10 相川小学校	12	2.6%
11 厚木第二小学校	10	2.2%
12 緑ヶ丘小学校	25	5.5%
13 戸室小学校	23	5.1%
14 愛甲小学校	23	5.1%
15 妻田小学校	23	5.1%
16 鳶尾小学校	20	4.4%
17 毛利台小学校	18	4.0%
18 上荻野小学校	25	5.5%
19 飯山小学校	27	5.9%
20 森の里小学校	19	4.2%
21 依知小学校	17	3.7%
22 戸田小学校	18	4.0%
23 上依知小学校	17	3.7%
合計	454	100.0%

【中学校】

学校名	回答	
	回答数	割合
1 厚木中学校	28	11.5%
2 依知中学校	6	2.5%
3 荻野中学校	21	8.6%
4 睦合中学校	20	8.2%
5 小鮎中学校	17	7.0%
6 玉川中学校	5	2.1%
7 南毛利中学校	16	6.6%
8 東名中学校	10	4.1%
9 林中学校	34	14.0%
10 藤塚中学校	37	15.2%
11 森の里中学校	9	3.7%
12 睦合東中学校	30	12.3%
13 相川中学校	10	4.1%
合計	243	100.0%

③ 児童・生徒の所属する学年の学級数

【小学校】

学級数	回答	
	回答数	割合
1 学級	46	10.1%
2 学級	210	46.3%
3 学級	86	18.9%
4 学級	70	15.4%
5 学級	32	7.0%
6 学級	7	1.5%
7 学級	0	0.0%
わからない	3	0.7%
合計	454	100.0%

【中学校】

学級数	回答	
	回答数	割合
1 学級	7	2.9%
2 学級	31	12.8%
3 学級	51	21.0%
4 学級	59	24.3%
5 学級	30	12.3%
6 学級	37	15.2%
7 学級	25	10.3%
わからない	3	1.2%
合計	243	100.0%

(2) 教職員

① 勤務している学校の区分

勤務区分	全体	
	回答数	割合
小学校	69	64.5%
中学校	38	35.5%
合計	107	100.0%

② 役職

役職名	全体	
	回答数	割合
校長	36	33.6%
教頭	36	33.6%
学年主任	35	32.7%
合計	107	100.0%

③ 小規模校(1校当たり11学級以下)での勤務経験の有無

勤務経験の有無	全体	
	回答数	割合
ある	62	57.9%
ない	45	42.1%
合計	107	100.0%

④ 大規模校(1校当たり19学級以上)での勤務経験の有無

勤務経験の有無	全体	
	回答数	割合
ある	92	86.0%
ない	15	14.0%
合計	107	100.0%

(3) 市民

① 年齢区分

年齢層	全体	
	回答数	割合
20 歳未満	6	1.5%
20 歳～29 歳	36	8.9%
30 歳～39 歳	47	11.6%
40 歳～49 歳	64	15.8%
50 歳～59 歳	66	16.3%
60 歳～69 歳	88	21.7%
70 歳～79 歳	78	19.2%
80 歳以上	21	5.2%
合計	406	100.0%

② 市在住期間

在住期間	全体	
	回答数	割合
1年未満	10	2.5%
1年～5年	35	8.6%
5年～10 年	26	6.4%
10 年～20 年	60	14.8%
20 年～30 年	77	19.0%
30 年～40 年	109	26.8%
40 年～50 年	22	5.4%
50 年以上	67	16.5%
合計	406	100.0%

③ 在住地域

在住地域(在住地区)	全体	
	回答数	割合
厚木地域(厚木北地区、厚木南地区)	64	15.8%
依知地域(依知北地区、依知南地区)	26	6.4%
睦合地域(睦合北地区、睦合南地区、睦合西地区)	81	20.0%
荻野地域(荻野地区)	47	11.6%
小鮎地域(小鮎地区)	24	5.9%
南毛利地域(南毛利地区、南毛利南地区)	113	27.8%
玉川地域(玉川地区)	6	1.5%
相川地域(相川地区)	27	6.7%
緑ヶ丘地域(緑ヶ丘地区)	5	1.2%
森の里地域(森の里地区)	13	3.2%
合計	406	100.0%

④ 世帯内における児童・生徒の有無

児童・生徒の有無	全体	
	回答数	割合
市立小学校に在学している子どもがいる	32	7.9%
市立中学校に在学している子どもがいる	15	3.7%
いない	359	88.4%
合計	406	100.0%

2. 設問

各設問の回答対象者は次のとおりになります。

設問No	回答対象
(1)～(14)	保護者及び教職員
(15)～(18)	市民
(19)～(21)	保護者、教職員及び市民

(1) 小規模な学校のメリットについて(3つまで選択可)

① 小学校

設問	全体		保護者		教職員	
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
1 児童・生徒の人間関係が深まりやすい	298	22.5%	265	23.6%	33	16.3%
2 学校行事や部活動等で一人一人の発表や活躍の機会などが多くなりやすい	216	16.3%	185	16.5%	31	15.3%
3 異学年間の教育・交流活動の機会が多くなりやすい	163	12.3%	128	11.4%	35	17.3%
4 教員の目が届きやすく、きめ細かな指導を受けやすい	386	29.1%	334	29.7%	52	25.7%
5 ICT 機器などの授業で使用する教材や教具が一人一人に行き渡りやすい	159	12.0%	130	11.6%	29	14.4%
6 学校と保護者・地域住民が連携した教育活動を展開しやすい	85	6.4%	64	5.7%	21	10.4%
7 当てはまるものはない(メリットを感じない)	18	1.4%	17	1.5%	1	0.5%
合計	1,325	100.0%	1,123	100.0%	202	100.0%

② 中学校

設問	全体		保護者		教職員	
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
1 児童・生徒の人間関係が深まりやすい	147	22.5%	127	23.2%	20	19.2%
2 学校行事や部活動等で一人一人の発表や活躍の機会などが多くなりやすい	101	15.5%	83	15.1%	18	17.3%
3 異学年間の教育・交流活動の機会が多くなりやすい	66	10.1%	49	8.9%	17	16.3%
4 教員の目が届きやすく、きめ細かな指導を受けやすい	218	33.4%	184	33.6%	34	32.7%
5 ICT 機器などの授業で使用する教材や教具が一人一人に行き渡りやすい	84	12.9%	72	13.1%	12	11.5%
6 学校と保護者・地域住民が連携した教育活動を展開しやすい	25	3.8%	23	4.2%	2	1.9%
7 当てはまるものはない(メリットを感じない)	11	1.7%	10	1.8%	1	1.0%
合計	652	100.0%	548	100.0%	104	100.0%

(2) 小規模な学校のデメリットについて(3つまで選択可)

① 小学校

設問	全体		保護者		教職員	
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
1 クラス替えが困難なことなどから、児童・生徒の人間関係や相互の評価などが固定化しやすい	357	30.2%	289	29.0%	68	36.6%
2 多様な考え方に触れる機会や学びあいの機会、切磋琢磨する機会が少なくなりやすい	191	16.2%	145	14.6%	46	24.7%
3 運動会や文化祭などの集団活動や学校行事に制約が生じやすい	105	8.9%	81	8.1%	24	12.9%
4 習熟度別学習やグループ学習など多様な学習形態がとりにくい	55	4.7%	49	4.9%	6	3.2%
5 部活動等の設置が限定され、選択の幅が狭まりやすい	177	15.0%	159	16.0%	18	9.7%
6 PTA 活動等における保護者 1 人当たりの負担が大きくなりやすい	257	21.7%	233	23.4%	24	12.9%
7 当てはまるものはない(デメリットを感じない)	40	3.4%	40	4.0%	0	0.0%
合計	1,182	100%	996	100.0%	186	100.0%

② 中学校

設問	全体		保護者		教職員	
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
1 クラス替えが困難なことなどから、児童・生徒の人間関係や相互の評価などが固定化しやすい	175	27.6%	142	26.8%	33	31.4%
2 多様な考え方に触れる機会や学びあいの機会、切磋琢磨する機会が少なくなりやすい	84	13.2%	66	12.5%	18	17.1%
3 運動会や文化祭などの集団活動や学校行事に制約が生じやすい	65	10.2%	51	9.6%	14	13.3%
4 習熟度別学習やグループ学習など多様な学習形態がとりにくい	21	3.3%	21	4.0%	0	0.0%
5 部活動等の設置が限定され、選択の幅が狭まりやすい	160	25.2%	127	24.0%	33	31.4%
6 PTA 活動等における保護者 1 人当たりの負担が大きくなりやすい	114	18.0%	108	20.4%	6	5.7%
7 当てはまるものはない(デメリットを感じない)	16	2.5%	15	2.8%	1	1.0%
合計	635	100%	530	100.0%	105	100.0%

(3) 大規模な学校のメリットについて(3つまで選択可)

① 小学校

設問	全体		保護者		教職員	
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
1 豊かな人間関係の構築や多様な集団の形成が図られやすい	216	17.8%	181	17.6%	35	19.2%
2 多様な考え方に触れる機会や学びあいの機会、切磋琢磨する機会が多くなりやすい	252	20.8%	198	19.2%	54	29.7%
3 運動会や文化祭などの集団活動や学校行事に活気が生じやすい	256	21.1%	205	19.9%	51	28.0%
4 習熟度別学習やグループ学習など多様な学習形態がとりやすい	81	6.7%	71	6.9%	10	5.5%
5 様々な種類の部活動等の設置が可能となり、選択の幅が広がりやすい	189	15.6%	171	16.6%	18	9.9%
6 PTA 活動等における役割分担などで保護者の負担を分散しやすい	181	14.9%	168	16.3%	13	7.1%
7 当てはまるものはない(メリットを感じない)	37	3.1%	36	3.5%	1	0.5%
合計	1,212	100.0%	1,030	100.0%	182	100.0%

② 中学校

設問	全体		保護者		教職員	
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
1 豊かな人間関係の構築や多様な集団の形成が図られやすい	90	13.8%	75	13.7%	15	14.6%
2 多様な考え方に触れる機会や学びあいの機会、切磋琢磨する機会が多くなりやすい	134	20.6%	112	20.4%	22	21.4%
3 運動会や文化祭などの集団活動や学校行事に活気が生じやすい	148	22.7%	119	21.7%	29	28.2%
4 習熟度別学習やグループ学習など多様な学習形態がとりやすい	30	4.6%	29	5.3%	1	1.0%
5 様々な種類の部活動等の設置が可能となり、選択の幅が広がりやすい	149	22.9%	119	21.7%	30	29.1%
6 PTA 活動等における役割分担などで保護者の負担を分散しやすい	85	13.1%	79	14.4%	6	5.8%
7 当てはまるものはない(メリットを感じない)	15	2.3%	15	2.7%	0	0.0%
合計	651	100.0%	548	100.0%	103	100.0%

(4) 大規模な学校のデメリットについて(3つまで選択可)

① 小学校

設問	全体		保護者		教職員	
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
1 全教職員による児童・生徒一人一人の把握が難しくなりやすい	437	41.0%	375	42.2%	62	34.6%
2 学校行事や部活動等で一人一人の発表や活躍の機会などが少なくなりやすい	188	17.6%	159	17.9%	29	16.2%
3 同学年の結びつきが中心となり、異学年交流の機会が少なくなりやすい	142	13.3%	123	13.9%	19	10.6%
4 特別教室や体育館、プール等の施設・設備の利用面で、一定の制約がかかりやすい	262	24.6%	194	21.8%	68	38.0%
5 当てはまるものはない(デメリットを感じない)	38	3.6%	37	4.2%	1	0.6%
合計	1,067	100.0%	888	100.0%	179	100.0%

② 中学校

設問	全体		保護者		教職員	
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
1 全教職員による児童・生徒一人一人の把握が難しくなりやすい	214	44.4%	184	45.9%	30	37.0%
2 学校行事や部活動等で一人一人の発表や活躍の機会などが少なくなりやすい	72	14.9%	60	15.0%	12	14.8%
3 同学年の結びつきが中心となり、異学年交流の機会が少なくなりやすい	50	10.4%	43	10.7%	7	8.6%
4 特別教室や体育館、プール等の施設・設備の利用面で、一定の制約がかかりやすい	125	25.9%	93	23.2%	32	39.5%
5 当てはまるものはない(デメリットを感じない)	21	4.4%	21	5.2%	0	0.0%
合計	482	100.0%	401	100.0%	81	100.0%

(5) 小規模な学校における学校運営上の課題について(3つまで選択可)

① 教職員

設問	全体		小学校		中学校	
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
1 教職員数が少ないため、経験、教科、特性などの面でバランスのとれた配置を行いにくい	82	26.8%	52	26.1%	30	28.0%
2 教職員同士が切磋琢磨する環境を作りにくく、指導技術の相互伝達や人材育成がなされにくい	15	4.9%	12	6.0%	3	2.8%
3 教職員一人当たりの校務負担や学校行事に関する負担が重くなりやすい	95	31.0%	62	31.2%	33	30.8%
4 清掃や校内の環境整備等への対応が追いつかなくなりやすい	19	6.2%	17	8.5%	2	1.9%
5 部活動等の指導者を確保することが難しくなりやすい	25	8.2%	4	2.0%	21	19.6%
6 教職員の出張や研修等の調整が難しくなりやすい	37	12.1%	27	13.6%	10	9.3%
7 校外学習でのバス代や卒業アルバム作成費用などで、児童・生徒一人一人の負担が大きくなりやすい	32	10.5%	25	12.6%	7	6.5%
8 当てはまるものはない(特に課題とは感じない)	1	0.3%	0	0.0%	1	0.9%
合計	306	100.0%	199	100.0%	107	100.0%

(6) 大規模な学校における学校運営上の課題について(3つまで選択可)

① 教職員

設問	全体		小学校		中学校	
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
1 児童・生徒や教職員が多く、管理する職員が行うマネジメントが難しくなりやすい	52	18.6%	30	16.0%	22	24.2%
2 教職員相互の連絡調整や共通理解を図ったりする上で支障が生じやすい	55	19.7%	37	19.7%	18	19.8%
3 災害など緊急な事態が発生した場合における臨機応変な対応が難しくなりやすい	32	11.5%	22	11.7%	10	11.0%
4 特別教室や体育館、プール等の施設・設備の利用に当たり、授業の割り当てや調整が難しくなりやすい	88	31.5%	61	32.4%	27	29.7%
5 ICT 機器などの授業で使用する教材や教具を児童・生徒一人一人にいきわたらせることが難しくなりやすい	45	16.1%	33	17.6%	12	13.2%
6 保護者や地域住民との連携が難しくなりやすい	5	1.8%	5	2.7%	0	0.0%
7 当てはまるものはない(特に課題とは感じない)	2	0.7%	0	0.0%	2	2.2%
合計	279	100.0%	188	100.0%	91	100.0%

(7) 小学校における1学年当たりの学級数は、何学級が望ましいか

① 小学校

設問	全体	
	回答数	割合
1 学級	5	1.0%
2 学級	100	19.1%
3 学級	338	64.6%
4 学級	74	14.1%
5 学級以上	6	1.1%
合計	523	100.0%

保護者		教職員	
回答数	割合	回答数	割合
4	0.9%	1	1.4%
97	21.4%	3	4.3%
277	61.0%	61	88.4%
70	15.4%	4	5.8%
6	1.3%	0	0.0%
454	100.0%	69	100.0%

(8) 中学校における1学年当たりの学級数は、何学級が望ましいか

① 中学校

設問	全体	
	回答数	割合
1 学級	0	0.0%
2 学級	6	2.1%
3 学級	62	22.1%
4 学級	137	48.8%
5 学級	54	19.2%
6 学級	20	7.1%
7 学級以上	2	0.7%
合計	281	100.0%

保護者		教職員	
回答数	割合	回答数	割合
0	0.0%	0	0.0%
6	2.5%	0	0.0%
60	24.7%	2	5.3%
107	44.0%	30	78.9%
49	20.2%	5	13.2%
19	7.8%	1	2.6%
2	0.8%	0	0.0%
243	100.0%	38	100.0%

(9) (7)又は(8)でその学級数を選択した理由について(3つまで選択可)

① 小学校

設問	全体		保護者		教職員	
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
1 児童・生徒の人間関係が深まりやすい	167	12.9%	157	14.2%	10	5.2%
2 豊かな人間関係の構築や多様な集団の形成が図られやすい	191	14.7%	147	13.3%	44	22.7%
3 多様な考え方に触れる機会や学びあいの機会、切磋琢磨する機会が多くなりやすい	146	11.2%	110	10.0%	36	18.6%
4 異学年間の教育・交流活動の機会が多くなりやすい	44	3.4%	34	3.1%	10	5.2%
5 学校行事や部活動等で一人一人の発表や活躍の機会などが多くなりやすい	72	5.5%	66	6.0%	6	3.1%
6 教員の目が届きやすく、きめ細かな指導を受けやすい	261	20.1%	230	20.8%	31	16.0%
7 習熟度別学習やグループ学習など多様な学習形態がとりやすい	70	5.4%	59	5.3%	11	5.7%
8 運動会や文化祭などの集団活動や学校行事に活気が生じやすい	143	11.0%	119	10.8%	24	12.4%
9 様々な種類の部活動等の設置が可能となり、選択の幅が広がりやすい	37	2.8%	37	3.3%	0	0.0%
10 ICT 機器などの授業で使用する教材や教具が一人一人に行き渡りやすい	71	5.5%	64	5.8%	7	3.6%
11 学校と保護者・地域住民が連携した教育活動を展開しやすい	26	2.0%	22	2.0%	4	2.1%
12 PTA 活動等における役割分担などで保護者の負担を分散しやすい	44	3.4%	39	3.5%	5	2.6%
13 その他	27	2.1%	21	1.9%	6	3.1%
合計	1,299	100.0%	1,105	100.0%	194	100.0%

② 中学校

設問	全体		保護者		教職員	
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
1 児童・生徒の人間関係が深まりやすい	74	11.0%	65	11.4%	9	8.7%
2 豊かな人間関係の構築や多様な集団の形成が図られやすい	88	13.0%	73	12.8%	15	14.4%
3 多様な考え方に触れる機会や学びあいの機会、切磋琢磨する機会が多くなりやすい	79	11.7%	67	11.7%	12	11.5%
4 異学年間の教育・交流活動の機会が多くなりやすい	17	2.5%	14	2.5%	3	2.9%
5 学校行事や部活動等で一人一人の発表や活躍の機会などが多くなりやすい	30	4.4%	23	4.0%	7	6.7%
6 教員の目が届きやすく、きめ細かな指導を受けやすい	125	18.5%	102	17.9%	23	22.1%
7 習熟度別学習やグループ学習など多様な学習形態がとりやすい	34	5.0%	31	5.4%	3	2.9%
8 運動会や文化祭などの集団活動や学校行事に活気が生じやすい	98	14.5%	80	14.0%	18	17.3%
9 様々な種類の部活動等の設置が可能となり、選択の幅が広がりやすい	49	7.3%	42	7.4%	7	6.7%
10 ICT 機器などの授業で使用する教材や教具が一人一人に行き渡りやすい	34	5.0%	33	5.8%	1	1.0%
11 学校と保護者・地域住民が連携した教育活動を展開しやすい	6	0.9%	6	1.1%	0	0.0%
12 PTA 活動等における役割分担などで保護者の負担を分散しやすい	24	3.6%	23	4.0%	1	1.0%
13 その他	17	2.5%	12	2.1%	5	4.8%
合計	675	100.0%	571	100.0%	104	100.0%

(10) 調査票を持ち帰ったお子様の通学時間について

① 保護者

設問	全体		小学校		中学校	
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
15 分未満	315	45.2%	214	47.1%	101	41.6%
15 分以上 30 分未満	306	43.9%	187	41.2%	119	49.0%
30 分以上 45 分未満	68	9.8%	48	10.6%	20	8.2%
45 分以上 60 分未満	8	1.1%	5	1.1%	3	1.2%
60 分以上	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
合計	697	100.0%	454	100.0%	243	100.0%

(11) 調査票を持ち帰ったお子様の通学方法について

① 保護者

設問	全体	
	回答数	割合
1 徒歩のみ	687	98.6%
2 公共交通機関を利用	3	0.4%
3 その他	7	1.0%
合計	697	100.0%

小学校		中学校	
回答数	割合	回答数	割合
449	98.9%	238	97.9%
1	0.2%	2	0.8%
4	0.9%	3	1.2%
454	100.0%	243	100.0%

(12) 児童の片道の通学時間は、どのくらいの時間までが許容範囲だと思うか

① 小学校

設問	全体	
	回答数	割合
15 分未満	102	19.5%
15 分以上 30 分未満	351	67.1%
30 分以上 45 分未満	60	11.5%
45 分以上 60 分未満	10	1.9%
60 分以上	0	0.0%
合計	523	100.0%

保護者		教職員	
回答数	割合	回答数	割合
100	22.0%	2	2.9%
300	66.1%	51	73.9%
45	9.9%	15	21.7%
9	2.0%	1	1.4%
0	0.0%	0	0.0%
454	100.0%	69	100.0%

(13) 生徒の片道の通学時間は、どのくらいの時間までが許容範囲だと思うか

① 中学校

設問	全体	
	回答数	割合
15 分未満	25	8.9%
15 分以上 30 分未満	198	70.5%
30 分以上 45 分未満	45	16.0%
45 分以上 60 分未満	10	3.6%
60 分以上	3	1.1%
合計	281	100.0%

保護者		教職員	
回答数	割合	回答数	割合
25	10.3%	0	0.0%
170	70.0%	28	73.7%
37	15.2%	8	21.1%
8	3.3%	2	5.3%
3	1.2%	0	0.0%
243	100.0%	38	100.0%

(14) (12)又は(13)で回答した通学時間の許容範囲を超える場合、どのような配慮が必要か
(2つまで選択可)

① 小学校

設問	全体		保護者		教職員	
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
1 公共交通機関(バスなど)の利用を認める	151	17.7%	118	16.1%	33	28.4%
2 スクールバスを運行する	222	26.1%	195	26.5%	27	23.3%
3 自転車での通学を認める	91	10.7%	91	12.4%	0	0.0%
4 住所から近い場所にある学校への通学を認める	271	31.8%	228	31.0%	43	37.1%
5 徒歩で構わない	98	11.5%	86	11.7%	12	10.3%
6 その他	18	2.1%	17	2.3%	1	0.9%
合計	851	100.0%	735	100.0%	116	100.0%

② 中学校

設問	全体		保護者		教職員	
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
1 公共交通機関(バスなど)の利用を認める	111	23.9%	83	20.9%	28	42.4%
2 スクールバスを運行する	70	15.1%	67	16.8%	3	4.5%
3 自転車での通学を認める	113	24.4%	111	27.9%	2	3.0%
4 住所から近い場所にある学校への通学を認める	126	27.2%	99	24.9%	27	40.9%
5 徒歩で構わない	42	9.1%	36	9.0%	6	9.1%
6 その他	2	0.4%	2	0.5%	0	0.0%
合計	464	100.0%	398	100.0%	66	100.0%

(15) 過去1年間に市立小・中学校にどれくらいの頻度で行ったか

① 市民

設問	全体	
	回答数	割合
1 週1回以上	15	3.7%
2 月1回以上	17	4.2%
3 半年に1回以上	40	9.9%
4 年1回以上	86	21.2%
5 1回も行っていない	248	61.1%
合計	406	100.0%

(16) 過去1年間に市立小・中学校にどのような理由で行ったか(いつでも選択可)

① 市民

設問	全体	
	回答数	割合
1 子どもの見送りやお迎え(例:児童クラブなど)	28	8.6%
2 子どもの保護者としての活動(例:PTAなど)	30	9.2%
3 教育活動や放課後活動などのボランティア(例:学習支援ボランティアなど)	14	4.3%
4 学校行事(例:運動会や発表会、授業参観など)	84	25.8%
5 選挙での投票	69	21.2%
6 災害時(大雨、台風、地震)における避難	9	2.8%
7 避難訓練などの防災関係活動	33	10.1%
8 地域(例:町内会・自治会、子ども会など)の会合・行事	23	7.1%
9 体育館や校庭などを利用した活動(例:スポーツ・文化活動など)	21	6.4%
10 業務上の関係(例:学校で働いている、学校と業務上の関わりがあるなど)	11	3.4%
11 その他	4	1.2%
合計	326	100.0%

(17) 小・中学校がこれまで地域で担ってきた役割で重要だと考えるものについて(5つまで選択可)

① 市民

設問	全体	
	回答数	割合
1 児童・生徒の放課後の居場所・活動場所	315	21.5%
2 地域防災の拠点	353	24.0%
3 選挙の投票所	143	9.7%
4 地域の活動・交流の拠点	187	12.7%
5 スポーツ活動の拠点	189	12.9%
6 文化活動の拠点	68	4.6%
7 生涯学習の拠点	54	3.7%
8 子育て支援の拠点	77	5.2%
9 高齢者福祉の拠点	33	2.2%
10 障がい者福祉の拠点	19	1.3%
11 行政窓口サービス等の拠点	12	0.8%
12 特に該当するものはない(地域における活動拠点としての認識はない)	14	1.0%
13 その他	4	0.3%
合計	1,468	100.0%

(18) これからの地域における活動拠点として小・中学校に期待する役割について(5つまで選択可)

① 市民

設問	全体	
	回答数	割合
1 児童・生徒の放課後の居場所・活動場所	307	20.3%
2 地域防災の拠点	347	23.0%
3 選挙の投票所	110	7.3%
4 地域の活動・交流の拠点	198	13.1%
5 スポーツ活動の拠点	158	10.5%
6 文化活動の拠点	69	4.6%
7 生涯学習の拠点	76	5.0%
8 子育て支援の拠点	111	7.4%
9 高齢者福祉の拠点	74	4.9%
10 障がい者福祉の拠点	28	1.9%
11 行政窓口サービス等の拠点	18	1.2%
12 特にない(児童・生徒の学びの場以外の役割は不要)	8	0.5%
13 その他	5	0.3%
合計	1,509	100.0%

(19) 学校施設の老朽化によって発生する問題のうち、重要な問題は何か(2つまで選択可)

① 保護者

設問	全体		小学校		中学校	
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
1 災害の発生時に施設が壊れやすくなる可能性があるなど、児童・生徒の安全が確保できなくなる恐れがある	644	51.5%	423	51.5%	221	51.5%
2 施設が建設当時の考え方で設計されているため、教育内容・方法の変化に対応できず、児童・生徒の教育環境を充実させることが難しくなる	110	8.8%	75	9.1%	35	8.2%
3 雨漏りや設備の故障などにより、学校生活に支障をきたす恐れがある	225	18.0%	149	18.1%	76	17.7%
4 災害の発生時に地域の避難施設として使用できなくなる恐れがある	240	19.2%	158	19.2%	82	19.1%
5 児童・生徒の登校意欲が低下する恐れがある	27	2.2%	13	1.6%	14	3.3%
6 その他	5	0.4%	4	0.5%	1	0.2%
合計	1,251	100.0%	822	100.0%	429	100.0%

② 教職員

設問	全体		小学校		中学校	
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
1 災害の発生時に施設が壊れやすくなる可能性があるなど、児童・生徒の安全が確保できなくなる恐れがある	90	42.7%	55	40.7%	35	46.1%
2 施設が建設当時の考え方で設計されているため、教育内容・方法の変化に対応できず、児童・生徒の教育環境を充実させることが難しくなる	37	17.5%	27	20.0%	10	13.2%
3 雨漏りや設備の故障などにより、学校生活に支障をきたす恐れがある	74	35.1%	45	33.3%	29	38.2%
4 災害の発生時に地域の避難施設として使用できなくなる恐れがある	5	2.4%	4	3.0%	1	1.3%
5 児童・生徒の登校意欲が低下する恐れがある	4	1.9%	3	2.2%	1	1.3%
6 その他	1	0.5%	1	0.7%	0	0.0%
合計	211	100.0%	135	100.0%	76	100.0%

③ 市民

設問	全体	
	回答数	割合
1 災害の発生時に施設が壊れやすくなる可能性があるなど、児童・生徒の安全が確保できなくなる恐れがある	323	42.4%
2 施設が建設当時の考え方で設計されているため、教育内容・方法の変化に対応できず、児童・生徒の教育環境を充実させることが難しくなる	88	11.5%
3 雨漏りや設備の故障などにより、学校生活に支障をきたす恐れがある	79	10.4%
4 災害の発生時に地域の避難施設として使用できなくなる恐れがある	255	33.5%
5 児童・生徒の登校意欲が低下する恐れがある	11	1.4%
6 その他	6	0.8%
合計	762	100.0%

(20) 学校の建て替えの考え方について

① 保護者

設問	全体		小学校		中学校	
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
1 現在の学校数を維持するため、経費は増えても、全ての学校を建て替える	59	8.5%	42	9.3%	17	7.0%
2 将来の児童・生徒数を見据え、経費も考慮し、地域ごとに建て替える学校を決めて、建て替える	519	74.5%	330	72.7%	189	77.8%
3 経費を増やさないことを重視し、一部建替えなど、最小限度の範囲で建て替える	87	12.5%	56	12.3%	31	12.8%
4 その他	32	4.6%	26	5.7%	6	2.5%
合計	697	100.0%	454	100.0%	243	100.0%

② 教職員

設問	全体		小学校		中学校	
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
1 現在の学校数を維持するため、経費は増えても、全ての学校を建て替える	19	17.8%	13	18.8%	6	15.8%
2 将来の児童・生徒数を見据え、経費も考慮し、地域ごとに建て替える学校を決めて、建て替える	77	72.0%	48	69.6%	29	76.3%
3 経費を増やさないことを重視し、一部建替えなど、最小限度の範囲で建て替える	10	9.3%	7	10.1%	3	7.9%
4 その他	1	0.9%	1	1.4%	0	0.0%
合計	107	100.0%	69	100.0%	38	100.0%

③ 市民

設問	全体	
	回答数	割合
1 現在の学校数を維持するため、経費は増えても、全ての学校を建て替える	39	9.6%
2 将来の児童・生徒数を見据え、経費も考慮し、地域ごとに建て替える学校を決めて、建て替える	308	75.9%
3 経費を増やさないことを重視し、一部建替えなど、最小限度の範囲で建て替える	44	10.8%
4 その他	15	3.7%
合計	406	100.0%

(21) 学校の適正規模・適正配置の検討に当たり特に必要な配慮について

① 保護者(回答数:108 件)

回答区分	回答内容
安全確保 (23 件)	・通学時の防犯対策・災害対策 ・きめ細やかな指導と活気のある教育活動である事
	バスを使用の場合は、一般の人に迷惑かからないような配慮が必要。 登校範囲が広がる場合は、危険場所などの再確認、考えられる対策をきちんと行う。
	やはり、危なくない道。 車が通らない、見通しが良い等
	安全な通学路の整備(防犯カメラ設置、歩道の整備など)
	家から近い学校があるならくりは関係なく、犯罪の多い世の中になってきているので、これまでの考えにとらわれず改善し、近い小学校に通うのが今は望ましいと思う
	見守り活動の強化
	今後、統廃合もやむを得ないかもしれないが、児童の登下校時の安全だけは考慮して欲しい。
	今年は8月も登校するので、下校時に熱中症にならないか心配です。 教室には冷房が完備されていますが、下校時はちょうど暑い時間帯に当たり、日陰もあまりないので、車で迎えに行く頻度を増やそうと思っています。 授業数が足りないのは分かりますが、ほかの方法で対応してもらえたら助かります。
	最近、不審者情報が増えているので、朝はボランティアの方もおり、見守りがありますが、帰りの時間はないので、夕方(6時間授業)時が心配です。
	災害時の安全
	児童が安心して安全に通学できる配慮が第一だと思います。
	将来統廃合になる学校があれば、遠方に通うことになるお子さんの登下校の安全の確保が大切だと思います。
	小学生は通学時の安全は絶対に確保してほしいです。
	人気のない通学路を設定しない。今後、児童数が減り、学区が広がると登下校時に1人になってしまう箇所が発生することがあるかと思いますが、なるべく人の目がある道を通学路として設定していただきたいと思います。
	通学に時間がかかる生徒については、安全を第一にするようにしてほしい。生徒数が減っているので、学校が少なくなるのは仕方ないですが、行事の時など、保護者は徒歩でとなると大変にはなると思います。
	通学時の安全確保(自然災害、不審者対策)
	通学時の安全性(交通状況、防犯等)
	通学中に大きな地震があった場合の判断のガイドがあれば安心です。子供は学校に戻っていいのか、家に戻ったほうがいいのか、など必ず家に誰かがいるとは限りませんので心配です。
	通学路、学校の地盤
	通学路の防犯カメラの設置を充実させる。不審者が多発する中で、児童・生徒の安全な通学につなげるため。
	適正規模・配置の検討に当たり、通学時間 20 分以上が懸念要素の一つになると思う。不審者情報が頻繁にある中で主な対策としては防犯ブザーの携帯や複数人で行動することとなっている。もちろん重要なことではあるが、通学路の見直しも必要。安全な通学路の確保を徹底してほしい。街灯が不十分で暗い道もある。街灯、ガードレール、監視カメラ等の通学路の設備に加えて、学童の充実、通学距離が遠い場合の親の送迎、スクールバス等、地域に応じて安全で適切な通学路の確保を願う。
	車やバイクの交通量。治安(人通りが全くない所など)。
	学校生活中(通学も含む)の子ども達の安全は最優先事項だと思います。

通学手段 (14 件)	もし他学校に通う場合は、通学路整備が必要です。
	気候変動による熱中症やゲリラ豪雨のこともあり、通学に負担がかからないように考慮するべきだと思います(30 分以内又はスクールバスなど)。 核家族や共働き世帯が今後も増えていくので、保護者が教育活動に参加せずとも先生方で教育活動が十分に行える規模の生徒数にするべきだと思っております。
	合併すれば移動距離の問題点がでてくると思うのでその場合自転車使用。ただし交通ルールが徹底されつつある今、子供に自転車で通学させるリスク(車道を歩行)を考えると、今の範囲をそのままに学校交流を増やす事で、近隣学校とも仲良く、勉強面で先生の目が行き届きやすくなると思う。
	子供が減り、学校数が減るのは避けられないとは思いますが学校が減れば通学時間が増えます。 今ですら一番近い学校で片道 1 時間かけての登校で夏場は部活後に下校して、家に着くのは既に暗い 19 時半。 登校はまだしも下校時はスクールバスなどの対応が必須だと思います。今ですら必要性を感じます。
	市内で学校の人数が均等になるよう検討し、通学はスクールバスなどを可能にしたら良いと思う。
	市内全体の学校を同一基準で考えるのではなく、地域ごとの特性による配慮が必要。 個人的には、中学の統廃合を行い、スクールバスの運行を望みます。 また、支援の必要な児童、生徒の為に、教室に加配が必要であり、その人員は一般公募して非常勤ではなくアルバイト形式にする等をし、子どもに寄り添った授業を執り行ってほしいと思います。
	自転車通学を可としたほうがよい。
	人数が減少した学校は他校と合併する等して、学校の建て替えが無駄にならないようにしていく中で、登校時間が長くなってしまう場合も考えられるため、公共交通機関やスクールバス、自転車が使用できるようになることが好ましいと思われます。
	地区によっては生徒数が減ったことによって、部活動の数も減ってしまったりしているので、学校の統合なども考えてもよいと思います。その場合、通学が大変になることがあるならば、自転車通学なども考えてくれればと思います。
	中学校の自転車通学を可能にしてほしい。自転車通学させるかどうか、各家庭で判断して良いと思う。
	中学校の自転車登校を検討してもらいたい。
	登校班がないと困ると聞いたことがある。低学年は特に登校班がないと大変みたいです。
	統廃合によって、学校がなくなってしまったエリアの子どもや、あまりにも遠い子どもに、バスの時間帯フリーパスなどの配布。
	統廃合の際に通学距離が長くなった児童・生徒に対して、スクールバス・自転車等の対応が必要では。
教育環境・施設 (23 件)	学級人数を減らし教員の目がいきとどくようにしてもらいたい。地域にもよるが小、中同じ建物でも良いのではないのでしょうか。小、中それぞれ合併となると徒歩通学も難しくなるため通学方法をさらに考えていく必要があると思います。学校が廃校になってしまった後何かに使えるように見据えて建て替えするのも良いのではないのでしょうか。IT が進んで行くにあたり環境を整える事も良いのではないのでしょうか
	学級数の大小により、学習形態の差や教員の対応の差が生じない配慮が必要だと思う。児童・生徒の通学には安全の確保が最優先となるでしょうが、地域によりその課題は様々なため、地域ごとの柔軟な対応が必要なのではないのでしょうか。
	希望する学校への入学がスムーズに出来れば良いと感じる。
	教育について、子供達が怖がるような教員や授業はしてほしくありません。甘やかす意味は全くなく、厳しくしても良いが、恐怖を抱く環境は避けてほしい。

教材の量や重さが、昔に比べてかなり増加しており、小中学生共に毎日 10 キログラム近くの荷物を背負いながらの登下校が問題視されています。今後、さらに登下校時間が延びる可能性がある場合、カギ付きロッカーを全校に配置し、負担を軽減するなど、成長期の大切な身体に問題がおきないように、ご配慮いただきたいです。
空部屋が多いと子どものモチベーションも下がると思うので、各教室少人数化で多クラスだと先生の日も行き届き、子どものモチベーションも下がらず、親も安心できると思いますが、教師数が増える事も問題になるかもしれないですね。
現在ある大規模な小学校は減らし、小さくし、色々な場所につくり、通学時間を減らす。
子供が通う中学校はただでさえ人数が多いので学区外からの受け入れを止めてほしい。
昨年よりコロナで、長期お休みに入っているなか、今までは、1〜5 年まで、3クラスだったのに、6 年生で 2 クラスになった。 なぜ人数が減っても 3 クラスにしなかったのか、とても残念でした。 6年のフロアに女子トイレが無い。ワザワザ1階のフロアに行くそうです。 6年のフロアは、男子トイレがあり、その奥にあるとか意味がわかりません。 トイレの設備は、しっかりとやって頂きたいです。
市が子どもの教育環境を第一に考えているとは思えない。風俗店の看板、狭い通学路、子供がもっと落ち着いて学べる環境が良い。
市の中心部の学校は、児童数はこの先も減らないと思いますが、狭い敷地に詰め込まれている子どもたちのケアを早くして頂きたいです。 運動会では椅子に座るスペースがとれないので地べたにクッション敷きです。その上学区が広く登校時間がかかる上登校班制のため、遠回りして毎日歩いています。 建て替えも必要と思いますが、現在不利益を被っている子どもたちのことも考慮して頂きたいをお願いします。
児童・生徒が減っているため、使用していない教室が多い。学校の階を低くして、教室数を減らし、コロナとも長い付き合いになりそうなので、教室を広くして風通しの良い学校が、経費はかかるが必要。古い学校から行って欲しい。 学校から遠い生徒については、公共機関だと保護者の負担があるので、スクールバスも良いのかもしれない。
住所別になっている学区は不自然なところや現住所での無理がある地域があったり隣の学校なのに、人数のバランスがかなり違ったり同じ市内なのに学力の差がかなりある。授業数にもかなり差がありその辺りは市で統一する必要があると思います。 学校ごとのイベントはそれぞれの特性を生かして別々でも良いと思います。中学校の学区についてもかなりの無理があり、今、住んでいる地域は中学校の地区が微妙な所なのでその辺りも検討して頂きたいです。中学校も学力の差部活動の差がかなりある。
小中一貫校や WEB 授業を認めるなどの検討も必要
新しく学校を建てるなら、今までの概念にない、障害者も健常者も地域の方々も学べる場としての未来の学校
統廃合により学校の選択、通学方法など個々に対応できると良い
生徒が学校を選べる様にできる事。 新しいスタイルに柔軟に対応できる教師を増やす事。 旧態依然な考え方しか出来ない教師は退いていただく事。
生徒間の相性もあるので、最低でも 2 クラス有ると良い
生徒数に応じ、適正な教員数の配置もされていると思いますが、小規模校での人員不足で、教員一人に対する負担が大きくなる事がない事を願います。
全ての学校が適正の範囲に無くても良いと思う。大規模も小規模もあり、通う学校をある程度の定員を決めて自由に選べるとか。公立であってももっと特色を出していても良いのでは？先生の負担が減ることも大切だと思います。
中学校に上がって、クラスが減ることには驚いています。 部活動やイベントに影響が出ると思うので、4〜6クラスに調整してほしいです。 このアンケートが来て、自分の子供が通う学校がなくなってしまうのか、不安です。その時は、早めに教えていただきたいと思います。

教育環境・施設 (23 件)	中学校は部活動や高校生活に備えて、クラス数、生徒数がある程度多い方がよいのでは、と思っています。
	通学時間に関しては、坂道ばかりの所、平坦な道の所と学校によって違うので、時間だけでは子どもたちの疲労等も変わるのではと思います。1 学年 1 クラスのみでは何かトラブルがあった時、その後もそのクラスに居づらくなるため、不登校が増えるのでは？
	余りにも生徒が多すぎると教師の目が届かなく、いじめなども多くなる また、運動会や行事で親が見に行く時など規制が掛かったりなど困る 生徒達も余りにも多くいるのも、運動や行事で狭苦しい思いをするのは、可哀想だと感じる
通学区域 (11 件)	一学年一学級が増えたと見込める場合は、早めに学校合併を検討した方が良いのではないかと思う
	一時的な児童増加に伴うプレハブ使用は、教育環境としてはよくない考える。空気の入 れ替えが難しく、夏は教室がとて暑いようだ。住宅やマンション建設の許可を出すの なら、児童増加に伴う教室の不足を考慮し、早期に学区編成を実行する必要があると思 う。
	現在は中学校により学力の差や治安の違いなどがあり、本当に安心して子供が過ごせる ような学校づくりが大切だと思います。生徒数が偏らないように考えていく、また、学力に 応じて行く学校を選択できるなど考えていけると良いと思います。
	自分の子供が通う学校は規模が大きいので市内全体のバランスを考えて、学区の見直 しが必要だと思います。
	通学の校区にはおおむね満足しています。ただ校区の狭さで部活が少ないこと、近隣の 校区は広範囲で通学に時間がかかるのは大変そう。しかし、クラスも多く部活も多いので いいと思う。(遠くても学区外を選択せず頑張っているのだと思いますが)
	今ある学区を全て見直すのが良いと思います。
	小学校も選択制にして欲しい。玉川小以外にも児童数減少している学校も選択の学校に 入れて欲しい。
	小学生の自転車は事故の原因になりかねないし、何かあった場合、保護者がすぐに学校 に行けるよう、自宅から徒歩圏内であるべきだと思う。
	生徒数の増減により学区の見直し(特に中学校)を定期的に行ってほしい。
	中学へ進学とともに通学時間が5倍になる。(10 分が 50 分に) 小学校と中学校が同じ場所にあると、地域活動や様々なことで長く関われ、生活様式を 大きく変化させることなく、学業などに専念できる。
	通学に 30 分以上かかるような学区の場合は、学区の再検討や、保護者が参観する場 合などの駐車場・駐輪場の用意などする必要があると思う。
	過ぎたるは猶及ばざるが如しであります規模を平均化して得られるメリットにたいして通 学距離が犠牲になるデメリットは本末転倒とも思えます。優先順位が違うと考えます
通学時間 (10 件)	校数減少による通学範囲の拡大は通学時間が長くなる、1 人通学時間の増加など、昨 今の不審者情報の多さから不安が増える。更なる対策が必要。
	生徒の教育活動から考えると、社会人も同じですが、環境が悪いと生徒のやる気を削ぐ 原因になるので、他県よりも良い環境を作る事で、生徒数の増加も見込める可能性も増 えますし、生徒のやる気から学力向上へと繋がりますから、差別なく建て替える必要があ ると考えます。 通学については、通学時間が 30 分を超える場合は、通学時の生徒への負担も増えるの で、必ず対策が必要と考えます。
	通学時間が長いと低学年には負担になるし、近年の暑さだと高学年にも負担。荷物も多 いため体の負担にもなるので通学路の安全性を確認したうえでなるべく近い学校に通え るようにしてほしいです。
	通学時間が長くないような、何らかの配慮を含めての検討
	通学時間が長くなると、荷物が重い日(教科書など結構な重さがある)、気温が高い日な ど、生徒に負担がかかる為、配慮が必要だと思う。

	通学時間が長ければ長いほど登校班の班長は負担が大きくなる。登校班は便利なこともあるが、大人の都合で作られたものであり、デメリットも大きいと思う。 通学時間に配慮が必要だと思います。 適正な規模や配置を優先することで、通学に時間がかかる学区になる事は避けて欲しい。 適正な規模や配置をするために通学時間が長くなるなら、徒歩ではなく、安全に登下校できる手段を整える必要があると思います。 特に配慮が必要なのは、子供の通学時間と負担だと思います。
学級規模 (10 件)	1学年の適正な学級数の思案と同時に、1クラスに何人かということの方が、教育内容や、きめ細かい指導、1人1人の能力の伸ばしにつながっていくと思う。学級数は減っても、現在の様な1クラス40人近い人数では、1人の先生が全員を見るのには数が多すぎると思います。 1 学年当たりの学級数よりも、1 クラス当たりの人数のほうが重要だと思います。 1 クラス 40 人以上だと、教室内が非常に狭く感じます。 中学生ともなれば大人並みの体格の子もあり、40 人学級では子供たちも窮屈そうです。親としては担任の目も行き届かないのではないかと心配になります。 1 クラス当たりの人数に関しても是非ご検討いただきたく思います。 1クラスの人数を増やさないで欲しいです。やはりコロナが心配です。 1学年のクラス数より、1学級の人数が問題だと思います。1学級 40 人は多すぎます。 学級数だけではなく1クラスあたりの人数も考えるべき。 1 クラス 20 人台のクラスと 40 人のクラスでもクラス環境や授業の進め方が全然変わる。 学級数を減らす以前に1学級あたりの生徒数を減らし、先生が目が一人一人に届きやすくしたり、学習習熟度に合わせて教科によりクラス分けした方が、生徒、先生にとって良いのではないかと。 あと、厚木市も早く双方向でのオンライン授業をして欲しいです。 ネット環境のない家庭には市が貸与したり、ない生徒だけ学校に登校してオンライン授業を受けられるようにするなど、柔軟に対応して欲しいです。 自分の子供が通う小学校と隣接する小学校は近いのに児童数の差が大きい。学区を見直せば同じくらいの児童数になると思う。子供が通う小学校、2クラスでも 35 人以上になるので教室がぎゅうぎゅうになる。でも3クラスにするとスカスカになる。どうにかなりませんか。母親としては3クラスを希望します。 今年度、自分の子供が通う小学校の 6 年生は今までは 3 クラスだったが、2 クラスになりました。学校からの説明では市の規定人数にたった 1 人足りないの、今年度は 2 クラスになってしまったということでしたが、その後転入生が入り本来なら 3 クラスの人数でしたが現在は 2 クラスのまま授業を受けています。先日保護者面談があり、初めて教室に行きましたが後ろのロッカーギリギリまで席がありました。小学生で 1 クラスこの人数はおかしいです、しかもコロナのこのご時世にこれで安心な学校生活を送れるとはとても思いません。改善を強く希望します。 小学校高学年からは 1 クラス 26 人程度にし、きめ細かい授業を受けられるようにして欲しい。学力の底上げをして欲しいからです。今は、1 クラス 30 人以上いて、多いと思います。 地域によって1クラスの人数があまりに違う。現在は密状態で、1人の先生が全体を見られるとは思えない。学校の数より1クラスの人数を配慮すべき。
財源 (1件)	予算が限られているので、やれる事がだんだん少なくなってきました。残念です。予算を増やす事をのぞみます。
まちづくり (4件)	温暖化により災害が増えているため、避難所としての役割を重視した造り、場所にして頂きたいです。

まちづくり (4件)	学校、公民館、児童館、老人の家、自治会館などの距離も考えると良いと思います。また各地で水害が増えましたので、こういった施設は水害に遭わない土地に建ててください。 普段から地域の人が集える施設であれば、避難の時も躊躇せず避難すると思います。こういった施設に限られた人だけの場所だと感じるとなかなか踏み込みにくいものです。 小規模校のデメリットはあるが、今培われにくい友達との関係を深く築くことができていると感じる。統廃合することも必要だと思うが、通学の負担を軽減できるように検討していただけたらと思う。 また、厚木市には養護学校がないので、使っていない校舎などを利用するなど、是非、養護学校を設立してほしいと思う。 生徒数の減少→教師数の減少→部活廃止の流れが止まらない。地域の力を借りられるように配慮してください。
部活動 (4件)	小規模中学校の部活動の少なさ。部活動のために大規模中学校に行く人もいるので、小規模がより小規模になってしまう。 部活動の種類が少なくなりすぎないように配慮してほしい。(子どもが興味のあるものに集中して取り組む経験をしてほしいため。) 部活動の多様化・・・少人数学校では制約があり、所属したい部活がなく、自分の意図(希望)する部活に所属できない。 部活動を学校ごとだけでなく地域ごとなど範囲を大きくして選択肢を増やして欲しい。
その他 (8件)	いじめ問題を公開すべき 教員が市内在住の方が大多数で、移動も市内で限定しているからか、教員の視野が狭い気がする。東京まで広範囲ではなくても、市内限定にしない方が教員の質が上がるのでは？と期待します。全体的に「教員に子供を託す」ということが難しくなっていると思います。 現在の学校の立地場所にこだわらず、統合した場合に通学しやすい場所に建て替える検討が必要だと思います。 子供達にとっては友達と別れてしまうのは心身に影響を及ぼす出来事です。学校を統合するなどの措置を行う場合は、周知を速やかに行いその後十分な間隔を開けて実施して頂きたいと考えます。 初等教育は地域との繋がりや連携が、安全性を担保し、豊かな人間性を育むためにも重要であり、現在より学区を拡大することは、地域自治体の将来においてもマイナスになる。教育にこそ自治体の将来のために最も費用と労力をかけるべきで、コストダウンを検討する時には慎重すぎるほどの姿勢が求められる。また、このアンケートの設問は、問6など明らかに不適切であり、選択肢も恣意的で「小規模校のデメリット」などは設問の誘導と実態を知らない回答者の想像で強く表現されてしまい、この集計結果は今後の検討の基礎資料として瑕疵がある 少子化が進んでいるので、1学年1クラスは寂しい。 中学生になると荷物も増えるので、遠くから通う子には配慮をしてもらいたい。 登校班までが遠いから学校に行くのに遠回りで時間がかかるから登校班をなくしてほしい。 親子レクとか〇〇フェスとか無駄な行事が多いからなくしてほしい。 様々な制約があるなかでメリット・デメリットを検討されていると思いますが、学校でのみ提供可能な教育活動や、家庭でも対処可能な問題もあると思いますので、優先順位の検討の際にご配慮いただければと思います。

② 教職員(回答数:51 件)

回答区分	回答内容
安全確保 (7件)	・登下校の安全確保 ・地域とのかかわり
	学校の統廃合が行われた場合、小学校では児童の安全な登下校が大きな課題になります。通学距離が延びれば、その分だけ危険が増えるので、保護者が納得する方法を考えていく必要があると思います。
	児童の安全な登下校 地域の理解
	児童の登下校については、安全面を考えると学校の位置や規模だけでなく、信号の待機場所や歩道などの道路整備も重要だと思う。 現在の校舎は、人が乗れるエレベーターがなく、廊下も狭いので、バリアフリーの環境が整っていない。足をけがした児童が移動するのにとても不便。今後、車椅子を使用する児童が入学したときも対応できない。
	児童の登下校の安全。
	生徒にとって、通学や学校での生活が安全であることが大事であると思う。そのためにも、通学距離が長かったり、時間がかかったり、費用がかかる交通機関を使っでの通学などはふさわしくない。現在のように、隣接学区の生徒は選択できるようなシステムを残しながら、今後の生徒数を見据え、適正規模の学校を配置することが必要だと思う。また、生徒数減少により学級数が少なくなるのであれば、規定定数が決められてはいるが、少人数学級を配置し、それに合わせた教員や職員の配置を行い、きめ細やか指導を行えるようにしたい。
通学手段 (3件)	地域の意見を十分に聞くとともに、学校に対しても十分な情報提供をお願いします。また、通学については児童生徒の安全を優先し、通学距離が伸びないことや地域でできるだけ同じ学校に通える仕組み等の配慮をお願いします。
	現在、本厚木駅近くの一部の学校に児童が集中する傾向にあり教室数が足りないことが課題になっている、一方で駅から離れた学校では児童数の減少と共に空き教室が目立つ状況がみられる。そこで、スクールバスを運行して、駅周辺に住みながら、駅から離れた学校に通う選択肢を設けることで、改善が図れるのではないかと考える。豊かな自然の中で教育を受けられるという選択肢を示すことで、学級数、学校規模の適正化につながると思われる。
	通学に当たってバス通学となる生徒の家庭には、かかる経費の補助などが必要になる。また、学校は生徒が使用することが前提の施設となるので、生徒の意見を入れていきたい。(同一の規格にならない可能性はあるが…。)
教育環境・施設 (10 件)	適正規模にするために学区が広くなることを考えると、スクールバスの運行も視野に入れてはどうか。また、校舎の建て替えに当たっては、今後も発生するであろう新たな感染症への対策として1教室の面積の拡充やトイレ、手洗い場のしつらえの工夫を検討願いたい。
	それぞれの学校の学区地域の実態により配慮する内容は変わってくると思う。実態把握を丁寧に行っていただきたい。 また、地域によっては小中一貫校としての運用が可能な場合もあると思われるので、そのあたりも検討課題に入れていただきたい。
	児童・生徒の数が増加していた時に、分離・新設していった学校が、街区の成熟化や少子化に伴って小規模学校になることが多いのは仕方ないことなので、基本的にそうした学校は分かれる前の学校の「分校や分室」へと戻ることが良いと思われる。そして、これは統廃合でなく回帰である。 例えば、分校には1～3年生が通学し、4～5年生になると本校に通うようにしてはどうだろうか。 さらに、回帰化する学校については、福祉的機能を充実させた公共施設と複合的にして建て替えておけば、地域の理解も得やすいのではないと思う。

教育環境・施設 (10件)	・新型コロナウイルス感染予防対策では、大・中規模校よりも小規模校の方が対応の選択肢が多く、地域からの協力も得やすいと感じる。 ・小規模校は複式学級が生じる時点で再度統合を考えるとし、現時点では大規模校の分割などに着手すべきである。 ・学校の統廃合が生じる場合は、在校生にとって不利益にならないようなデザインを描くことが望ましい。 ・学校の統廃合への反対運動等が地域で生じ、統廃合が中止となったことも県内外であった。児童生徒・保護者、行政、地域住民が深い傷を負ったままの幕引きは避けるべきである。 やはり小規模校は(単学級、2学級)は教師の校務分掌の負担と生徒の選択幅の縮小、人間関係、社会性の発達、活気の面からも課題はありそうなので、4学級規模がよいかと考えます。奇数よりも偶数が何かと効率がよいと思います。 また、今後自然災害や生活安全上、通学距離も考慮する必要もあると思います。 学校施設の老朽化対策が必要。 兄弟間で異なる学校に所属することに対する対応。 施設の老朽化による児童の安全確保の課題はもちろんですが、現行の教育活動に合わせた施設が不十分であることを考えると、校舎の建て替えはできるだけ早くに進めてほしいです。施設の不備や、不具合に対応する教職員の負担増もあると思われます。 将来的な児童・生徒数を鑑み、少人数指導など現在実施できている教育活動を円滑に進めることができるような学校の適正規模の基準を明確化し、施設設備の整備をお願いしたいです。 生徒数と教職員数が適正であることが、学校での教育活動を充実させ、教職員の仕事においても各教職員の能力を発揮でき、仕事量も軽減できると考えます。 一方、生徒の通学の距離については配慮が必要であり、遠すぎると不登校の心配もあります。 本校は空き教室がないところも困っています。教育活動に支障を来すことも多く、心のゆとりが制限されます。
通学区域 (6件)	中学校においては、1中学校に対し、1小学校が入学してくるような状況では、せっかく中学生になっても、生徒のメンバーが替わらず、人間関係等をリセットすることができず、小学校時代のトラブルを引きずることがある。したがって、少なくとも2つの小学校から1つの中学校へ入学するような学区の編成が必要と感じる。 また、生徒の人数が少ないと、部活動の数が限られ、生徒が本当は入部したい部活動に入れない状況があるので、ある程度人数が多い方が、活気が出ると思われる。 ・バス通学をする場合の定期券購入にかかる保護者の負担増について ・学区の設定について ・大規模校、小規模校それぞれのメリットはあると思うが、できる限り適正規模に近づけることが必要と考える。そのためにはどうしても学区の再編成が必要と考える。学区の再編成には各地域から様々な意見が出されると思うが、市内一斉に再編成を実施できれば、その理解も少しは得られやすくなるのではないかと思う。 学校を選択できる地区に在住の方が、小規模校を選択することは少ない現状がある。それは、入学前の友人関係や周囲の通学先に左右され、従来のままの判断をしているからであると考えられる。単級が2学級 20 人程度の人数になることで得られる教育的効果がどれだけあるのかをアピールするとともに、学区の再編をして人数の調整をしてほしい。 地域によって人口に差があるので、様々な規模の学校ができるのは仕方がないが、1000人を超える学校や200人を切る学校があるのは、好ましくないのではないかと思う。無理のない程度に学区の再編成を行うことは必要だと思う。 長期的な展望は必要だが、大規模校の学区と小規模校の学区が隣接している場合にバランスをとる方法を検討していただきたい。現状のままでは、二極化がさらに進む一方のように思われる。

通学時間 (2件)	小学生にとっては適正な通学時間や通学路の保護者、地域の見守り等ができる範囲が良いと思います。 大規模校の教育活動は、マネジメントの強化・工夫で豊かに展開できる。しかし、児童数が多い分、児童指導上の対応、保護者への連絡が多く、電話回線の不足や、管理職・児童指導担当の業務量の増加が課題である。学区については、行政区と一致がありがたいが、適正規模の観点から難しい。見直しは必要かと思う。 学区が広く、朝 6 時台に家を出るため、やむなく転居を考えた事例もあり、60分以上かかる児童への配慮は必要だと考える。
学級規模 (8件)	1 学級あたりの人数を 40 人から 35 人に減らす。 40 人では一人一人に目が届きにくい。担任の業務が多忙になる。 授業でも人数が少なければ、理解はしやすい。 1 学級あたりの生徒数が、40 人以下なのは教育活動上大変厳しい。生徒たち一人当たりの活動スペースや集団としてのモチベーションを考えると 35 人学級を強く希望する。(できれば 30 人) 現在、3 年生では、39 人のクラスがあり、体格も大きく、机の大きさ、ロッカーや荷物の置き場、給食の配膳や各活動の作業など、スペースが全くといってない。このような教育活動を何年続けるのか。 35 人以下学級をまず実現することが優先事項だと思う。 クラス数は、学級の定員数により変動する。教育活動・効果のことも考え、将来的には 35 人学級または 30 人学級が実現する(してほしい)。その時のことも考慮し建て替えを考える必要があると思う。 近年、インクルーシブ教育が推進されている。児童・生徒一人一人のニーズに合わせた支援が行われるようになり、よりよい教育環境が構築されてきている。一方で、それに伴う弊害が起きているように感じる。それは、40 人を超える学級の増加である。上記支援の充実により、特別支援学級へ入級する児童が・生徒が増えているが、彼らは交流級での在籍人数にカウントされないため、結果的に学級数の減少につながっている。(例: 通常級児童 39 人、交流級児童 2 人などの場合) 小学校 4 年生以上でも、35 人以下学級を実現するべきである。 児童生徒の減少により、学校を統廃合していくことは理解できる。将来的に、40 人学級から 30 人学級、さらにはコロナ対策的に 20 人学級というようにときに、教室が足りないということにはならないようにしたい。国では教育再生実行会議が開催されたが、コロナ後の教育がテーマであり、30 人学級についても議題にあがると記事で読んだ。教室には余裕がほしい。 少子化ではあるが、現在の学級数を維持してほしいと思います。そのためにも、現在の 1 クラスの人数を減らして、30 人にしていきたい。 きめ細やかな指導を行っていく上で、現在の人数では難しく感じる時多い。また、学校に不安を感じている児童にとっても集団が少人数指導などで変わらないことで安心して登校できると考える。 少子化に伴い、学校の統合も考えていかなければならないと思う。しかし、前任校は大規模校であり、現在の中規模校に着任してゆとりを感じている。また、臨時休業明け分散登校を経験し、少人数での学習や児童指導のメリットを実感した。各学年 3 クラス程度、または、クラスの人数が 30 人以下であると、様々な面で教育活動がしやすいと思う。
まちづくり (3件)	・適正規模化や適正配置を進めることの必要性やメリットを、どれだけ市民に訴えることができるか。 ・自治会など地域の区割りとの調整をどのように整理するか。 小規模校ばかりになってしまうことによる教育活動のデメリットは少なくないと思うが、地域に学校があることによる地域のまとまりや活性化という意味合いも多いと思う。災害時の対応など学校という施設が担う役割もあるので、大幅な統合などは好ましくないと考えています。

まちづくり (3件)	地域における学校の存続は、地域の死活問題につながりかねない。そのため、現在ある学校の存続を保持していただきたいと願うとともに、公民館における行政区が異なることも問題としてあると思われる。故に、既に数年前から検討されている市施設、特に、公民館をはじめとする学校教育及び社会教育の連携を含め、複合的な施設(高齢者や障がい者の利用する施設)などの地域分散を加味しての再検討も広い視野に立って御検討いただけたら幸いと存じます。
部活動 (1件)	入学の条件の中に部活動がある場合は学区外でも保護者の了解のもと通学を許可する。
特別支援学級 (2件)	地域の違いにより、適正規模のある程度の幅は必要と考える。 特別支援の生徒については生徒数や障害種別による学校選びを自由選択とする。 特別支援学級の在籍児童数の増加も加味した適正規模の検討は、重要だと思われる。
その他 (9件)	・学校は地域の一部と思っている地域の方がたくさんいる。地域の方々にもしっかり説明していく必要がある。 ・基本的に小規模も大規模もクラス数よりも、1クラスの人数によって大きく変わるので、このアンケートで比較するのは難しい。 ・小規模校は、生徒数が少ないが、職員の人数も少ないので仕事の分担が多い。 ・大規模校は、部活動数が多いので、部活動数の少ない小規模校からの希望者が増えるため、少なくなると減少が加速することになり、大規模校を希望する家庭が増える。 ・大規模校で人間関係が心配と言うことで小規模校を希望した場合などは、小規模校は、職員の人数も少ないので、必ず目が行き届くわけではない。 学級数が同じ3・4学級程度の学校が複数あるのが現状だと思いますが、地域によってその学校ごとに抱える課題は様々です。「現状のままでよい」学校もあれば、「規模を縮小する」ことで、日常的に起こる問題が減少すると考えられる学校もあるのではないかと思います。 規模の適正化を実施する際には、一時的に学区の再編成等で保護者が児童が考えていた学校に通えなくなることがあり得るのではないかと。一時的なこととはいえ、当該児童や保護者にとってはその瞬間がすべてなので、難しい問題と感じます。 厚木市は町村が合併で誕生しています。各学校は公民館とともに合併前の町村の名残があり地域の方の思いは強いと思います。適正配置については必要とは思いますが、思いを大切にしたい丁寧な推進をお願いしたいと思います。 小規模校になる場合は、義務教育学校(小中9年間)として配置することも一考である。学区については公民館区との関係も配慮してほしい。 生徒数等の将来推計のみで判断するのではなく、厚木市全体の未来や居住者の過去の歴史(母校のことなど)にまで配慮し、検討していく必要があると考える。 大規模校には大規模校の、小規模校には小規模校のメリットとデメリットがどちらもあります。なので、どちらが良くてどちらが悪いということは一概には言えないと思います。適正規模・適正配置を考えるうえで、予算や人員など、考えるべきことはたくさんあって大変だとは思いますが、大切なのは子どもたちのよりよい成長を第一に考えることだと思います。そのために教師はいるし、保護者もそれに協力してくれるはずです。 地域の学校への思いをどんなふうにし、認めていけるのか。学区再編だけ考えてもなかなか進まないことを考えると、学校への愛情をどうやって次の学校に引き継げるのか。これがとても難しいと思う。地域の理解なくして学校が存在するのは難しい。

③ 市民(回答数:112 件)

回答区分	回答内容
安全確保 (34 件)	・通学の時、登校時の配慮には力を入れているが、下校時、又は、下校後(子どもだけで遊ぶ時間など)のセキュリティ強化も考えていけるとより安全性が高まると考えます。厚木市の中では、歩行者用の道がないにもかかわらず(もしくはほそい...)その道を使って通学をする姿もあるので、そういった所も検討する時に考えてみてほしい。
	・デジタル化が主流になってきているので、教育活動の場にデジタル化に触れられるような場所が増えていけるとより、子ども達も社会に順応していけると思います。
	・通学路の安全確保 ・学校を地域のものとして活用するのであれば、何かしら子供たちに関わりのある身近なものであってほしい。
	この先、児童数は少なくなっていくと思いますが、統廃合により通学距離が長くなることには反対です。特に小学生は通学の安全面を大切に考えてほしいです。
	これからますます増えてくるであろう子供を狙う不審者から、子供たちを守るため、校舎内や通学路に暗きよの部分が発生させないように願います。
	とにかく安全で楽しく活動、通学ができることが一番だと思います。
	安全のためにも、通学は自宅から一番近い所が良いと思います。
	駅周辺の子どもの数と、駅から離れた地域での子どもの数の大きな差を感じます。それに伴って、学校の学級数、クラスの中の子どもの数の差も出ていると思うので、災害が起きた時、避難所になる・ならないに関わらず、子ども達が安全に学校生活を送れるよう考えていただきたいです。
	学校に行くまでの間、児童生徒の見守りをしてください。
	学校の適正規模、配置など、少しむずかしく考える事が出来ませんでした。ただ、毎日子供が通学する道路など車が子供達への朝の通学に対しての配慮がない事がっかりしています。中依知は、特に圏央道が新しく出来始めたりもしていますし、細い道を朝の時間、129 号線から逃げてくる車を避けながら通学をしている状況です。
	学校は児童の安全をもっと気を付けてください。
	厚木市は交通量が多いと思うので、児童、生徒の安全を確保するような通学路の構築が必要だと思う。
	国道等の大通りにある歩道を通学路としない方針のようなのだが、歩道の整備されている道と、厚木特有の細い車通りの多い歩道のない(歩車分離されていない)場所を通学路とするのはどちらが比較的安全か。運転していると徐行していても非常に怖い。
	最近、子供をねらう大人がいて、通学時や帰り道の安全を考えてほしいです。防犯カメラや電灯など、見回りなど、不審者の対策をお願いします。
	私の地域の七沢で中学校が森の里中ですが、登下校している生徒を見かけますとき、森林公園の坂を通り、トンネルを抜けている姿を見ると、防犯上の心配をしています。玉川中にまとめられないのでしょうか。孫もいませんがそう思っています。
	資料を見ても小・中学校が何処に有るかわからないのと地区ごとの児童・生徒数がわからないので規模や配置についてはわかりません。 厚木市の場合通学路に車が多く危険箇所が多々あるので改善出来れば学校数を減らす事も可能と思います。 学校での指導に道路で遊んだり交差点を確認しないで渡るとかを徹底しないと危ないです。
	児童・生徒の安全と適切な教育環境の提供ができるかを重視すべき。
	児童・生徒の安全確保を第一に考えた検討を行ってください。
	車および自転車の交通(通学路に大きな道路等がある場合又は交通量が多い場合は子供が危険となる可能性があるので配慮が必要だと思う)
	全てに優先して、災害や犯罪などに対して安全を確保すること。
	通学について 通学路の整備、見守りボランティア等の確保 緊急時マニュアル作成、訓練など

安全確保 (34 件)	通学に関してですが、この地域は第二東名が出来たり、それにともない大型トラックが入りする倉庫等も多く、また色々と土地も開発され学校前の狭い道も大型トラックや乗用車も以前よりも道が変わったりして増え、スピードを出して走る事もあり、歩道はありますが危険が多くあると感じます。登下校時等時間帯やトラックの規制等出来るようにしてもらいたいと思っています。
	通学時の事故防止の徹底
	通学時間や通学路を考えて、安全に登下校できるようにする点
	通学路(スクールゾーン)を使用する時間帯の車の通行制限(運転手の高齢化が進んでいるので、何かがあった後では遅すぎると思うため)
	通学路について、車の事故防止の観点、生徒のみならず歩行者安全のためにも、国道等を渡る必要がある場合、歩道橋や地下通路を整備して安全対策を行ってほしい。
	通学路の安全確保 集団登校下校以外の地域の保安の必要性
	通学路の安全確保に努め、痴漢や連れ去りなどが起こらない安心した町づくりが必要！！
	通学路の整備(車進入禁止の見直しなど)
	登下校時の安全に配慮してください。
	登下校時の安全対策
	登校・下校時間における交通ルールの改定(時間での通行禁止など)により事故を減らす。
	通学路での見守り(ボランティアや保護者による)の強化による事故、事件の予防。
	1クラスの数上限ですが、高学年・中学生は体も大きくなり教室での狭さを感じます。全学年、総じて 35 人を限度にすべきだと思います。通学範囲の広い中学校では、安全に考慮した条件の上、自転車通学など認める方向が有ればと思います。バス手段もない地域でひとけのない所を歩いている中学生に不安を感じます。
	・通学路の整備 ・統廃合も検討する。建て替えの際、最新設備を導入する必要はなく、建物(足元)がしっかりしていることが重要。
	児童の登下校今も色々注意されて児童を守っていられますが、子供達をいっそう守ってあげてほしいと思います。その事を第一に！！悲しい事故が起きない様に。
通学手段 (19 件)	遠方の学校に登校する必要がある場合、バスや自転車の利用を検討していく点。特に自転車の利用。交通安全に配慮し、通学徒歩で困難な場合は許可しても良いと思う。
	交通機関の維持は必要だが、できないのであれば、自転車や電動自転車の通学等を許可するべきである。
	市内の中心地域はある程度生徒の確保は出来ると思いますが、郊外の生徒数の少ない学校から統廃合を進め、遠距離通学の生徒へスクールバス等で対応する。
	児童・生徒数の減少に合わせて学校数を統合、全体数を減らすと地域によっては学校までの距離が遠くなると考えます。交通事情により危険な通学路も発生することを考えるとスクールバスを導入し、児童・生徒が安全に通学できることも視野に入れてみてほしいと思います。すでに成人した子どもが成長した学校の役割を真剣に取り組まれる厚木市の活動を応援しております。
	児童数が減り、統廃合を考えざるをえなくなったら、スクールバスの検討も必要である。学校は、児童たちのための施設と考えず、これからは、地域の方の活動拠点や高齢者福祉施設、子育て支援等複合的に考えるべきだと思う。特に、災害時の避難場所としてより充実したものを望む。厚木市は職員の給与が高待遇で他市と比べ高く、税金も高く、資金がたくさんあるので、大切な所に予算や人を使ってほしい。全市民に還元してほしい。子育ては日本一とうたっているが、高齢者にとってはどうか？私たち世代は損している様な気がしてならない。
	児童数減少による統廃合で学校への通学時間が長くなる可能性があり、安全上でもスクールバスの必要性がでてくるのではないかと思います。

	少子化の流れで学校数が少なくなった時に通学が困難な子のフォローをどこまで行えるか、検討、必要な準備をしておく必要があると思う 生徒数の減少が進むと、学校の統廃合を進めることと考えます。その場合、小学校低学年の通学を考えなくてはなりません。スクールバス等、考える必要があると思います。 地域ごとに建て替える学校を決める時は、バス通学等のことを考え、バス路線のあることにも配慮していただきたい。(小学校がバス停からあまりに遠くにならないようお願いしたい。) 厚木市にある古い学校(5校だったでしょうか)は、できるだけ残してほしい。 通学にスクールバス 通学についてはスクールバス等を導入する。駐車場の整備・収容台数を増やす。 通学専用小型バスの採用もしてはどうか 通学中の事故、連れさりなどを鑑み、スクールバスの導入など。一つの学校へ一定数の子供を集めることも可能になると考える 低学年の児童たちは通学路を歩き帰り1時間は歩いています。できれば通学バスの利用があればと日々思っています。 適正規模、適正配置により子どもの通学路、通学時間、同じ学区内となる児童生徒が変わった場合、子どもたちの生活に大きな影響を及ぼす。特に通学路の安全確保と、通学距離や時間が増えた場合の、児童生徒及び家族の負担軽減について配慮いただきたい。徒歩での通学が困難となる可能性がある場合は、保護者の送迎に頼るばかりでなく、送迎バスの運行など行政によるサポートを期待している。共働き家庭が増える中で、これ以上児童生徒および保護者の負担が増えると非常に苦しい。 登校班がないと不安。 統合により通学路が長くなる場合のスクールバス運行、運行により職員、操縦手の雇用の増加で地域を活性化 統廃合もやむを得ないと思う。それにより通学距離が延びる場合はスクールバスの導入などを検討すれば良い。 私の通っていた小学校は少子化を見据え将来的に老人施設に使用出来るようにと建てられたが結局使われることなく更地となった。 中学生は乗り方の教育も盛り込み、〇〇km以上は自転車通学も検討しても良いと思います。
	オンライン授業に対応できる教室をつくる。 その他、ピアノレッスンのための防音ルームを1学校に10ルームくらいほしい。 子どもたちがフリーに授業を受けられる教室の新しい形を考えてほしい。
	リモート学習等も積極的にとり入れて、学習の質を落とすことなく、かつ将来必要となる学校数の建物は効率よく建て替える。
	現在の中学校では、余裕教室を使って少人数学級が推進されています。「適正配置」による生徒数増に伴って余裕教室も減ってくると、少人数授業を行う教室の確保が難しくなる場合はないのか、あらかじめ検討できると良いと思います。
	高学年も少人数、低学年はさらに少人数が理想。1校のクラス数も多すぎる学校は減らす必要がある。支援学級を増やすだけでなく、クラス内で適切な配慮と教育を受けられる環境作りが大切。
	指定カバン等、家庭の経費負担を削減、グランド照明の設置
	将来的に、小中一貫、中高一貫、小中高一貫などの制度が導入される可能性もある。建て替えの際は色々な可能性を鑑み、計画されるのが良いのではないかと考える。 またセキュリティを強化した校舎が望ましい。
	人口減少のため、統廃合はやむを得ないとする。無理をして中途半端に建て替えるよりは、統廃合をして児童・生徒一人当たりの教員数を増やすとか、別の面で充実させるべき。
	通学時間が多少長くなっても仕方ないので、しっかりした学校を作り、統廃合したほうが良い

教育環境・施設 (11件)	子供たちと大人、老人と共に社会の勉強ができるように、空教室を開いて使うことができたなら、地域一体となって学校を守れたらいいです
	・中高一貫校にし、国際バカロレアの取得が可能になるようにする ・中学レベルから英語のみでの教育を行う
	建物も大事だが、マンパワーを確保することにも力を注いでいただきたいです。生徒一人一人に目が行き届くように。(教員・ボランティア等)
通学区域 (7件)	(もし学校を廃校にする場合は) 徒歩や公共交通機関で通学できる距離に学校があるように配慮した方がいいと思う。
	過去マンモス校といわれた私共の子供がお世話になっていた小中学校は、児童は生徒数が減少しています。一方、孫達が通学している小学校は、マンモス校です。学区の見直し等が必要と思います。
	学区制(学区割)見直してほしい。境界付近に住宅がある場合、どちらでも選べるなど…学区制そのものを無くすのは、無理でしょうか？
	指定の学校より、他の小学校の方に距離が近い場合、他の小学校に通えるよう考慮してほしい。
	通学の負担にならないかの検討
	通学距離短縮、IT 効率化により職員の最適化
	南毛利小学校に通学している生徒さん通学路が遠いと感じますがいかがでしょうか
通学時間 (9件)	どこからでも徒歩 30 分くらいで、登下校できる範囲内にあるとよい。 防災、避難場所としても配慮してもらえると良い。
	学級数は2つ以上とする。(適度な競争心の醸成、他を見る力を養う) 通学時間は片道最長 40 分とする。(登下校時の安全確保、授業への力の注入)
	学校数を減らすという事は、必然的に通学距離が伸びる生徒がでできます。市外から子育てファミリーに転入してきてもらうには、学校までの(特に小学校)距離はそこに住むかどうか重要な判断材料になります。学校を減らすと、子育てしやすい街のスローガンに反しませんか。人口減少、流出につながると思います。
	広範囲の通学区になっているので、遠方より通学している子どもたちは大変だと思う。
	児童(特に新一年生)の登校にかかる時間に差がでないように、学区を決めてもらいたい。
	児童・生徒(特に児童)の通学時間、通学経路への配慮
	学校統廃合をされ、地域に学校がなくなるのは困る。が、小中合併はしょうがないかと思っています。遠方通学がないようにしてもらいたい。
	徒歩で通学するのであれば、片道 30 分以内
	年齢に応じた通学時間の配慮(体力面等)
学級規模 (3件)	子どもの数が減っているので、マンモス校などは除き、少子化が進む学校は1クラスの人数を少なくして児童に目が行き届きやすいようにしてほしい。(35 人以上を 30 人以上などに変更希望)
	小中学校の1クラスの生徒数は 30 人程度が良いと思います。担任の先生が生徒1人1人に心を配れるのはその程度の数だと思います。
	少人数クラスにより、きめ細かい指導が望まれます。
財源 (1件)	将来的な財政負担も重要な要素として、考慮すべきだと考えます。
まちづくり (6件)	「公園」とは違う「学校の校庭」の休み期間中の地域住民の利用について、柔軟な考え方ができるとよいと思います。
	児童・生徒数が減少するとしても地域防災の観点から学校数を減らさずに、他の目的で使用するなどしてもらいたいです。学校、地域デイサービス、公立保育所としてなど。
	少子高齢化に伴い、地域の高齢者の生涯学習の場、スポーツ施設としての活用を考えてもよいのではないかと。もちろん子供との交流の場としても。(地域公民館の行事として年1回交流の場として活動しているのは知っているが)

	生徒数の減少によって、学校を統合する事は通学時間が大幅に増える事により、危険も伴うので推奨しません。生徒が減る一方で高齢者は増え続けます。学校という場所を高齢者の為に有意義に利用して憩いの場となる事を望みます。例えば花壇を畑として開放すれば「歩いていける距離」で畑仕事ができると、喜ばれると思います。 元気な高齢者の方々は、暇を持て余しています(^^) そこに孤独になりがちな子育て世代の方々も加わると、地域に潤いが生まれるのではないのでしょうか？
	放課後にスポーツ活動(野球やサッカーとか)が気軽にできるような場所にしてあげて欲しいです。私が中学生の頃、遊びでスポーツをしたいのに場所が無くて困っていました。
	老朽化が目立ち早急に手直しが必要。統合廃合も含め検討を期待します。 学校は地域の中心であり、小中学校一貫、公民館、児童館も含め、地域が繋がるとより良いと思います。
その他 (22 件)	学校の位置は、周辺の周知があるので動かさない方が良いと思います。生徒の教育活動について・・・防災訓練を月1で実施、過去の事例に基づいたもの、これから起きること、様々なシミュレーションを実施して、必要があればその都度改修を検討する。引き取り訓練は日曜にする。
	オンラインでの活動を柔軟に対応するため、設備を整える。設備は必ず活用し、不具合があれば改善していく。PDCA サイクルを年度ごとに必ず実施する。
	すべてにおいて、安心・安全に未来に向かって清々しく教育を受けられる環境をつくって下さい。
	ランドセルの重さ
	駅前の学校に集中しすぎていると思います。 コロナがあるため、人数が少ない学校の方が行事などもできるので、分散できた方がいと思います。
	学校によって生徒数にかなり差があり運動会その他学校行事や教育内容等で違いがないか常々思っています。
	学校数は現状維持が良いと思います。
	教育の知識がない者の意見で申し訳ないが、地域での子供と高齢者(他の市民も)との交流や活動が積極的に学校で行われると福祉を考えるきっかけになったり、教育と福祉がお互い協力しあい、譲り合える関係性に今後なれると思います。その始まりとして、例えば放課後に学校で先生 1 人をつけて上級生が下級生に勉強を教え合う場(宿題をする場)を設けるなど、複数の学年が友達になれる場所を作るといいと思います。あと、もしなければ特別支援学級と通常級の交流の場も無理のない範囲であるべきだと思う。
	現代では、スマートフォンやパソコンなど、インターネットと切っても切れない社会になってきているため、適切なインターネットの利用方法など、時々教育として行なっていくべきだと思います。
	厚木市はバスで登校するエリアがあり、また水害(氾濫)、崖崩れ等の災害可能性も考慮して、学校の管轄エリアから検討してもよいのでは？
	今は世界的に変化の時に思えます。行政は箱物を作るのが大好きですが、あらゆる可能性を模索できる時期でもあると思います。
	最近の子ども達はこちらから挨拶しても挨拶が返って来ない、学校では挨拶について教育してないのかと思われる。中には、元気であいさつが返ってくる子供もいますが、又、地域の行事に(自治会、その他)子供達が参加しない。わたくしは上級生になれば、地区のイベントに参加をさせるべきであると思います。たとえば、地区の運動会、盆踊り、まつり等に事前準備段階から実施や後片付け等に参加してお互いに日常の中から大人と子供たちとのふれあいをつくっていく事が大切だと思います。個人的な意見ですが。
	体育館のトイレを洋式などきれいにしてほしい。災害の時に使いづらいと思う。
	小学生が朝並んで通学しています。昔は皆が、おはようございます、と挨拶していました。今はしてはいけないそうです。なぜでしょう。すれ違いながらおかしい感じがします。

その他 (22 件)	多様化する学習に伴い、教師にもそれに順応できる指導力が必要です。教師への学ぶ機会の提供、そして現場の労働時間問題の解決が現状の課題かと思います。子ども達は大人をよく見えています。大変と存じますが、何卒将来の厚木市のためによりしくお願いいたします。
	通学路の通学時間帯の侵入禁止や、ガードレールなどの設置により通学の安全確保が必要と考えます。カーナビにより抜け道を選ぶ運転手が増え、通学時間帯での住民以外の車の往来が目立ちます。 学校の老朽化については学校数や教室数の減少が起こると今後子育て世代が厚木へ引っ越すという選択をしない懸念があります。厚木市民を増やすため、働き盛りの人を増やすために学校の数など現状維持もしくは規模拡大をお願いします。
	統廃合の際には、同学年の生徒が出来るだけ多く同じ学校へ転入出来るように配慮が必要。出来る事なら廃校となる学校は、全学年の卒業を待って、入学から通学区を変更するのが望ましい。
	統廃合も視野に入れることは当然だと思います。 生徒たちの通学に対しての利便性を考慮して、また、地域の防災拠点としての機能も必要であると思う。
	小学校の正門ののり面が草で歩道を塞いでしまう時期があり、歩道を歩行しづらい。下部をセメント等で補強して、草が生えにくくするよう望む。車の運転中に突然人が車道へと出て来て危ない！即対応を望みます。学校側で、草刈りをされますが、草の勢いには追いつきません。
	必ずしも校舎で授業を受ける必要は無いと思うので、リモートや校外で学習できる機会を増やしても良いのではと思います。 また、一部児童・生徒の能力や個性に応じたカリキュラムを組んでも良いと思います。
	未来の子どもたちのためにどうすべきか考えて取り組んでいただきたい。高齢者を過度に優遇するのではなく、子どもへの優遇、子どもがいる家族を優遇するようにしてほしい。
	通学路において路上駐車が多いので警察と相談していただき標識の設置を増やすことを希望します。(すでに何回も警察に電話をしていますが標識がないため取り締まりができないと言われ困っております)

3. 自由記述欄

(1) 望ましい学級数を選択した理由について〔その他選択理由〕

① 保護者(回答数:21 件)

回答区分	回答内容
人間関係 (4件)	クラス替えの時、様々な子と同じクラスになれるから。
	子供同士のトラブルがあった場合、クラス替えの際考慮してもらえる可能性がある。
	少人数だと人間関係が深まりやすいが、多様な人間関係が図られにくい。バランス。
	良い人間関係は脳の働きを良くし、学習能力を高め、自律神経を整えてくれる。子供にとって小さな社会であるクラスのバランスを整えることは重要。最低 1 学年につき3クラスを設定し、1クラスは少人数にする。クラス替えで人間関係に偏りがなくなり、先生も一人一人に目が届きやすくなると思ったため。
活動 (4件)	1フロアに1学年が入れそうだから
	クラス替えで偏らない。
	少なすぎず多すぎずかと思いました。
	大規模、小規模それぞれのいいところ取りができる学級数だと思うから
教育指導 (2件)	学校に配置できる教員の数がある程度確保できると思う
	多すぎず少なすぎずで教員の目も届きそうな範囲であり、行動等も楽しく盛り上がって行えそうなクラス数だと思うため
その他 (11 件)	クラス数には意味を感じません。集団の世界を学ぶ上では1クラスの人数を検討して頂きたいです。
	せめて2学級はあった方がいいと思ったから。
	ちょうどいい
	何学級がいいというよりは、人数に応じて。今の学級は37～38人程なので、教室が狭そう。
	可もなく不可もなく
	学級数を決めるのではなく、学級人数によって学級数を決めるほうがよい。
	現状に満足しているから。
	今のクラス数でいいと思うので
	小規模と大規模のメリ大、デメ小
	全学年同じクラス数が良い
	適正な学級数だと思うから

② 教職員(回答数:11 件)

回答区分	回答内容
人間関係 (1件)	小規模と大規模のちょうど中間くらいで、バランスがいいから
活動 (1件)	諸活動は活発にでき、学年単位で動くときにも小回りがきく
経験等 (1件)	理由は一つに選べず、「偏らずにバランスが取れた集団活動ができる。」というメリットが享受できる数値を直観的、経験的に感じるものが学年5学級ということです。
教育指導 (4件)	1教員が1学年全クラスの授業を受け持ちやすい。複数学年を受け持つ負担が減る。
	学年内の教科担当が一人で見ることができる
	教員の教科の担当時間数と担当学年の関係で指導がしやすい
	教科指導において、自分の学年のみの担当で済む。
その他 (4件)	学校運営組織の中で、チームとして教職員が学校運営に参画しやすい
	学年の仕事と担任の仕事の量のバランスがよい。チームとして動きやすい。
	教職員の人間関係のバランスもとやすい
	教職員の働き方改革において、その数字における1学年での指導や運営に工夫ができる。

(2) 児童・生徒の通学方法について [その他選択理由]

① 保護者(回答数:7件)

回答区分	回答内容
自家用車 (4件)	自家用車
	車
	転居により1年間のみ車で親が送っている
	自家用車
徒歩か車 (3件)	徒歩・雨の時は車
	登校は送り(車)。下校は徒歩。
	徒歩又は送迎

(3) 通学時間が許容範囲を超える場合の配慮について [その他選択理由]

① 保護者(回答数:9件)

回答区分	回答内容
自家用車 (2件)	自家用車(日没時期が早い時期など限定)
	自家用車で行ってしまうと思うのでロータリーとか・・・。
保護者送迎 (2件)	天候によっては保護者による送迎
	条件付きで親の送迎を認める
バス等公共 交通機関 (2件)	学区外からの通学に関しては、公共交通機関の利用を認めて良いと思う。
	学区外からの通学の場合は、公共交通機関を利用しても良いと思う。
その他 (3件)	荷物を持っていく時や持ち帰りの時の先生たちの配慮。暑い時期に午前中授業だと1番日の高い時に長い時間外にいることになるので夕方までの授業にしてほしいです。ものすごく暑い時期は車での送迎を許可してほしい。
	教科書等の荷物を減らしてほしい。ランドセルが重すぎる。
	荷物の軽減

② 教職員(回答数:1件)

回答区分	回答内容
保護者送迎 (1件)	保護者の車による送迎を認め、駐車場の一時利用も認める。

(4) 過去1年間において学校に行った理由について [その他選択理由]

① 市民(回答数:3件)

回答区分	回答内容
その他 (3件)	学校医として
	学校運営協議会
	子どもの相談で毎日行くこともあった

(5) これまで学校が地域で担ってきた役割について [その他選択理由]

① 市民(回答数:1件)

回答区分	回答内容
その他 (1件)	地域のシンボルとしての存在

(6) 地域において、これからの学校に期待する役割について [その他選択理由]

① 市民(回答数:3件)

回答区分	回答内容
その他 (3件)	エリア管轄内での歴史や特産物、子供に地元のルーツを知ってもらう(地元愛を育てる)
	保護を求める人へのシェルター場所になってほしい
	地域のシンボルとしての存在

(7) 学校施設の老朽化により発生する問題について [その他選択理由]

① 保護者(回答数:1件)

回答区分	回答内容
衛生 (1件)	古いがゆえにアレルギーなどのある子にはあまりよくないと思う(埃、カビなど)

② 教職員(回答数:1件)

回答区分	回答内容
老朽化 (1件)	床が水平でなくなる等、施設の老朽化により児童が活動しづらくなる。

③ 市民(回答数:4件)

回答区分	回答内容
衛生 (1件)	トイレの洋式化、児童、生徒の使用も含めて
その他 (3件)	先進国としてふさわしい建物を整備すべき
	RCは老朽化すると修繕費が暴騰します
	先生達の負担

(8) 学校の建て替えの考え方について [その他選択理由]

① 保護者(回答数:22件)

回答区分	回答内容
整備方法の工夫 (13件)	将来の児童・生徒数を見据え、一部建替え等し、教育環境を整えていく
	今まで後回しにしてきた学校から建て替える
	全ての学級を建て替えることを主な考え方として、建替えの際、その規模ごとに適切な大きさを建て替える(小規模学校のところには小さく)
	今後人口は減るので、今までみたいな学校を建てる必要はあるのか? 地域的人口をみてきめてほしい。
	建て替えにこだわらず、学区を見直して、新たに建設する。
	経費を考慮し、古い物、老朽化が進んでいるものから順番に建て替える。少子化が進んでいるので、もし廃校になった場合のその後を見すえた建て方をするか、コンパクトにしていくなど、経費をおさえつつ、再利用等考えた建て替えが良いと思います。
	在学の児童、生徒の安全と災害時の避難場所を考えたら、あまり学校数を減らさず、最低限の学区編成をして、必要な建て替えを全てすべき。
	災害時に危険な場所の学校を重視し建て替える
	生徒の生活安全性のみを考えたらいいと思います。

整備方法の工夫 (13 件)	建て替え期間中、子供たちに大きな負担をかける事なく学習の場を設ける事が可能であれば、老朽化が進んでいる学校から建て替えをして欲しい。
	建て替え期間中の生徒たちの学習の場を設けるのは難しいのではと思う。しかし、子供達の活動に大きな負担を掛ける事なく建て替えが可能であれば、老朽化が進んでいる校舎から順次行っていたいただければと思う。
	小規模少人数であることは教育上好ましいことで、建物の老朽化を統廃合などの理由にすべきではない。建設費補修費などは技術革新、地域の協力、また、児童数が減れば建築面積も平屋建てにするなど圧縮可能である。
	耐震基準に満たない学校をしっかりと見極め順次建て替える。(子ども達の普段の生活に必要な事以外に、災害時の避難所としての機能を向上させる為にも和式トイレの排除、更衣室の整備等、必要な所から取り組むなど)
統廃合の実施 (5件)	老朽化に伴う安全を第一に考え、生徒が少ない地域は統合を考える。
	生徒数の少ない学校や近くにある小学校同士で統合し経費を減らす。
	統廃合もふまえて、老朽化している学校を優先。老朽化は場所により廃校など検討
	近隣の小学校を統合しながら、建替える。 市内で小学校中学校を統合して数を減らし安全な校舎を作りスクールバス等で通えるようにしたいのでは
施設有効活用 (4件)	将来、流動的に使えるような形で建て替えを進めていく。
	学校以外の用途で使用する事も踏まえた設計で全ての学校を建て替える。
	全ての学校を建て替えるが、将来統廃合をした際に、高齢者の為の施設などの地域社会に役立つ施設として利用できることを踏まえた設計にしてほしい
	避難施設としての役割もあるので、数は減らさない方が良くと思います。地域の人たちも活動できる施設として建て替えてはどうですか？横浜では閉校した小中学校を老人ホームなどにしています。

② 教職員(回答数:1件)

回答区分	回答内容
施設有効活用 (1件)	少子化に伴い学校を集約化していくときに複合的機能をもたせて建て替える

③ 市民(回答数:13 件)

回答区分	回答内容
整備方法の工夫 (4件)	専門家による事前調査を徹底し、全体なのか部分なのか様子見にするかを判断する
	各小学校ごとに一部建替えなど、公平性と経費と安全性を総合考慮でお願いしたい。
	老朽化が深刻な学校は、安全面第一に考えて、優先して一部建替、しかし、将来の児童、生徒数を見据えて、選定することも重要である。
	2 階に避難所は考慮したい
統廃合の実施 (4件)	生徒数の減少のさまは目に見えて明らか。生徒をなるべく集約し、要らない余った学校や校舎は廃校にし、早々にその土地は有効活用すべきか売却すべき。リモート教育できる時代。大きな箱物を直し直し維持するコストをかける様な時代じゃない。
	財政面と少子化の加速を考えると、選択と集中が必要でしょう
	近隣地区の小中学校を統合し、全体数を減らして建て替える。
	積極的な統廃合を進め、空いた学校施設を民間へ貸すか売却

施設有効活用 (3件)	複合的な施設にし、学校を併設する。
	老朽化が問題としてあるのならば、全ての学校を対象に建て替えるべきである。その際に、小学校・中学校などの単体で考えるのではなく、保育園や高齢者（デイサービス）施設も合同での建て替えを新しいモデルとして児童数の少ない地域などは考えても、地域の活性化につながると思う。
	小中学校を生涯学習の場との共存を目的に地域の大人、老人も通う事ができる施設へ、そのために、現在数を維持できるよう完全バリアフリーで建て替える
その他 (2件)	ホームスタディーの検討
	現在の状況が分からないため答えられない。

[参考資料]

- 厚木市立小・中学校の教育環境に関するアンケート調査(保護者対象)
- 厚木市立小・中学校の教育環境に関するアンケート調査(教職員対象)
- 厚木市立小・中学校の地域における役割に関するアンケート調査(市民対象)

保護者の皆様の御意見をお聴かせください

厚木市立小・中学校の教育環境に関するアンケート調査票

- ・厚木市教育委員会では、将来的な児童^{※1}・生徒^{※2}数の減少や学校施設の老朽化^{※3}に対応しながら、児童・生徒がより良い教育環境で学ぶことができるようにするため、令和2年7月に「厚木市立小中学校適正規模等検討委員会（以下、「委員会」という。）」を設置し、学校の統廃合を含め、学校の適正規模（学級数等）や適正配置（通学距離・時間等）について検討を進めています。

※1 本アンケートでは市立小学校に通う小学校1～6年生を指します。

※2 本アンケートでは市立中学校に通う中学校1～3年生を指します。

※3 児童・生徒数の減少や学校施設の老朽化については、3～5ページを御覧ください。

- ・委員会は、PTA や自治会、市立小・中学校長の代表、学識経験者、公募の市民の皆様で構成し、様々な視点から検討を進めていきますが、保護者の皆様の学校規模等に関するお考え方や意識を把握し、委員会での議論を充実させるとともに、今後の検討における基礎資料とすることを目的に、アンケート調査を実施させていただくこととしました。

- ・本アンケート調査は、学校生活を長く経験している市立小学校の6年生及び市立中学校の3年生の中から約 1,440 人を選び、その保護者の方に回答をお願いしております。

- ・調査は無記名であり、全て統計的に処理するため、回答者が特定されることはありません。また、他の目的には一切使用いたしませんので、お考えのまますを御回答ください。

- ・お忙しいところ誠に恐縮ですが、調査の主旨を御理解いただき、ぜひ調査に御協力いただきますようお願い申し上げます。

令和2年7月
厚木市教育委員会

■記入する上での注意点

- ① 回答は、本調査票を持ち帰ったお子様の保護者の方がお答えください。
※小学校6年生と中学校3年生のお子様がいる御家庭には、複数の調査票がお手元に届く場合があります。その場合には、小学校6年生の保護者・中学校3年生の保護者それぞれの目線から、お手元に届いた全ての調査票に御回答ください。
- ② アンケートは、**本調査票**または**下記URLのアンケートフォーム**のいずれかで御回答ください。

【**調査票**で回答する場合】

- (1) 回答は、各設問の選択肢の中から、該当する選択肢に「○」(まる)をつけてください。また、設問によっては文章を御記入ください。
- (2) 回答に迷う場合には、御自身のお考えにできるだけ近いものをお選びください。
- (3) 御記入いただいた調査票は、無記名のまま8月4日(火)までに調査票を持ち帰ったお子様の学級担任に御提出ください。

【**アンケートフォーム**で回答する場合】

- (1) スマートフォンやパソコンで次のURLにアクセスし、アンケートフォームの該当する選択肢を選んでください。また、設問によっては文章を御入力ください。
- (2) 回答に迷う場合には、御自身のお考えにできるだけ近いものをお選びください。
- (3) 8月4日(火)までに回答をお願いします。なお、アンケートフォームで回答いただいた場合、調査票での回答は不要です。

【アンケートフォーム URL】

<http://urx.red/V7Uc>



←QRコードからも
アンケートフォーム
にアクセスいただけます。

- ③ アンケートに関するお問い合わせは、下記の問い合わせ先まで御連絡ください。

【問い合わせ先】

厚木市教育委員会 教育総務課 教育企画係
電話:046-225-2663

市立小・中学校をとりまく状況について

1 児童・生徒数等の推移と将来推計について

厚木市では、1970(昭和45)年代以降、児童・生徒数が大幅に増加しました。

その後、児童数は1982(昭和57)年の19,392人、生徒数は、1987(昭和62)年の10,334人をピークとし、以降は一時的に増加した期間はあるものの、おおむね減少が続いています。

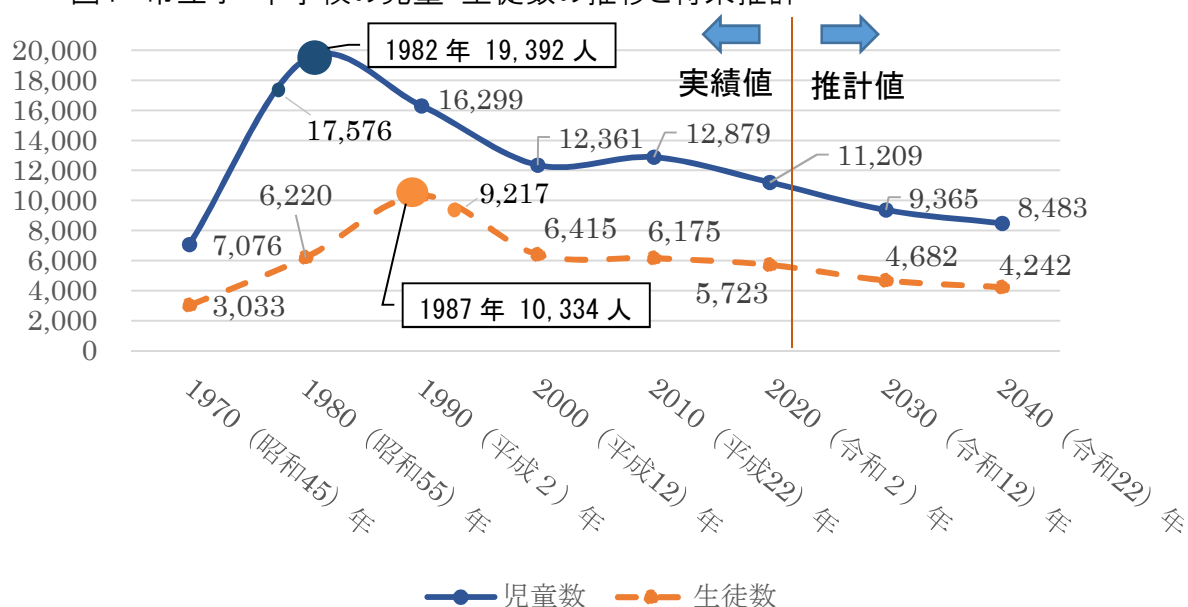
2020(令和2)年度の児童数は11,209人、生徒数は5,723人となっており、ピーク時と比較すると、児童数は約8,200人(△42%)、生徒数は約4,600人(△45%)減少しています。

学級数(クラス数)については、おおむね児童・生徒数の推移に合わせ、増減していますが、最近の傾向として、通常学級が減少する一方、特別支援学級は増加傾向にあります。

将来推計では、今後も児童・生徒数は減少が続き、2040(令和22)年には、児童数は8,483人、生徒数は4,242人となり、2020年度と比較すると、児童数は約2,700人(△24%)、生徒数は約1,500人(△26%)減少することが見込まれています。

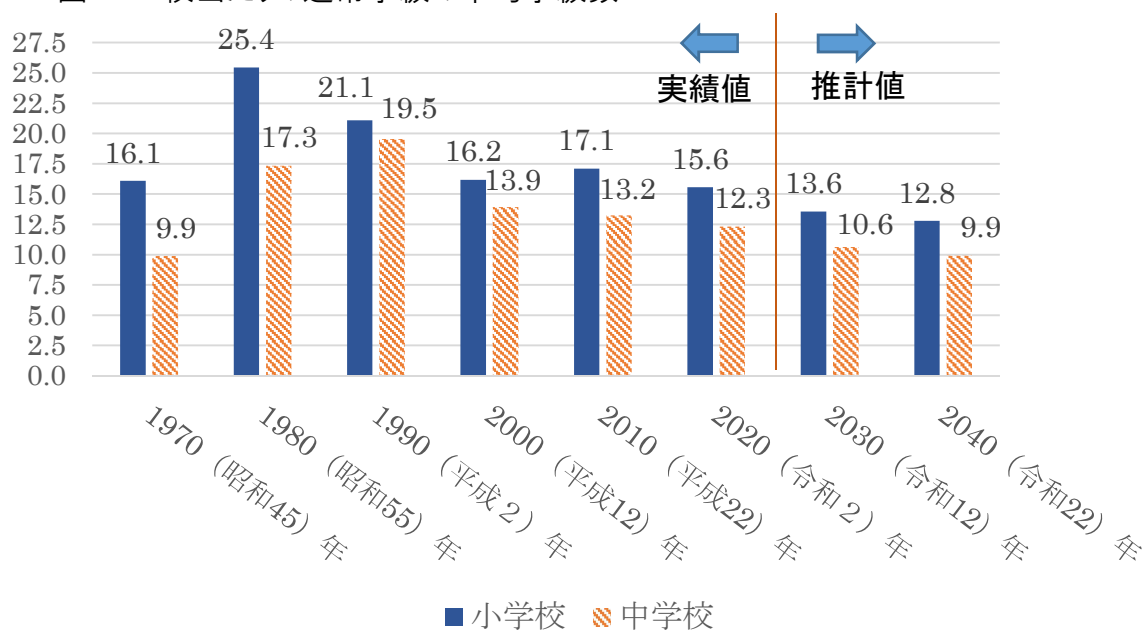
このため、人口減少社会における児童・生徒の教育環境について、長期的な視点をもって検討を進めていく必要があります。

図1 市立小・中学校の児童・生徒数の推移と将来推計



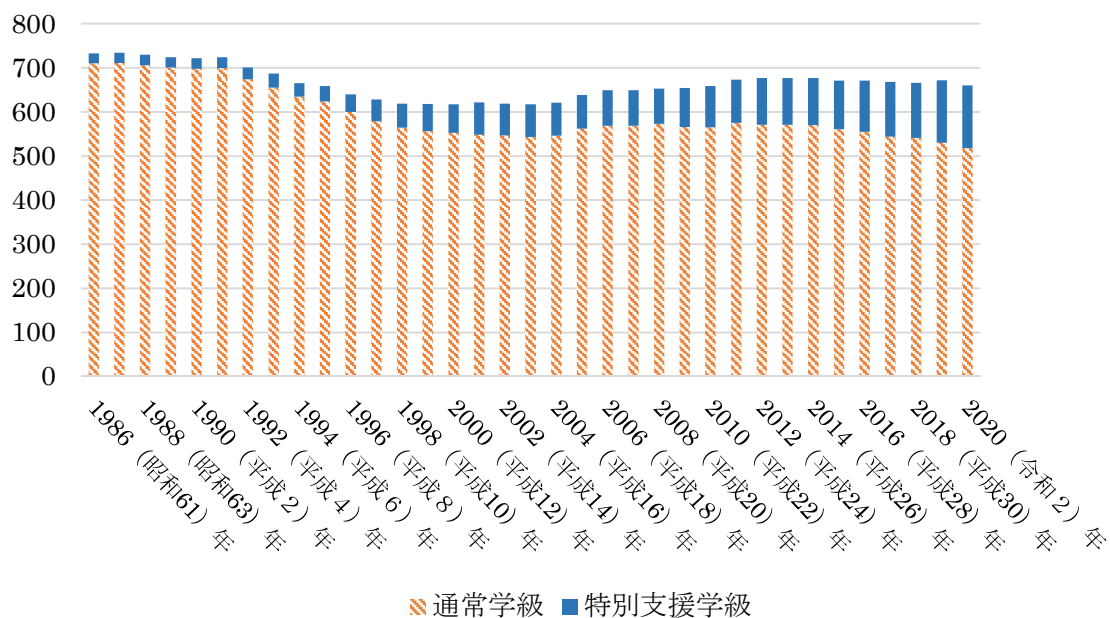
※児童・生徒数の将来推計値は、国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口(平成30(2018)年推計)」の値から、児童・生徒対象年齢区分を按分して算出。

図2 一校当たりの通常学級の平均学級数



※学級数の推計値は、小学校1～3年は35人につき1学級。小学校4年～6年及び中学校は40人につき1学級で算出

図3 通常学級と特別支援学級数の推移



2 学校施設をとりまく状況について

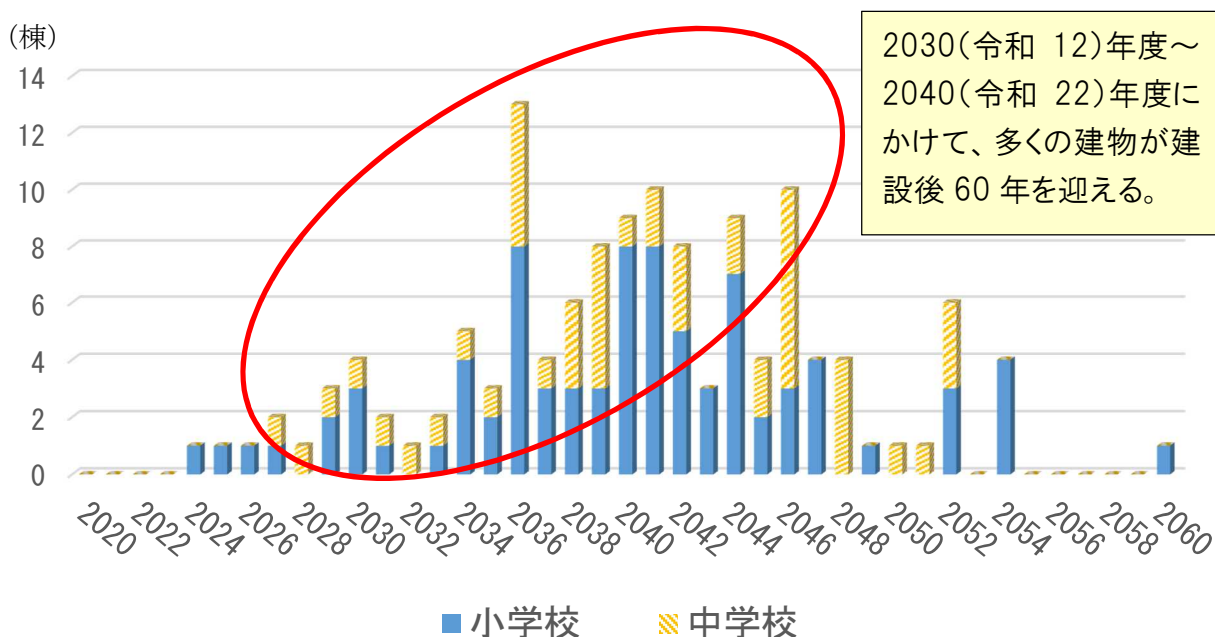
市立小・中学校は、昭和 40 年代後半から児童・生徒数の増加と共に整備が進み、現在、本市には小学校 23 校、中学校 13 校の合計 36 校(155 棟)が整備されています。

学校施設は、本市が保有している公共建築物における床面積の約半分を占めており、また、令和2年度現在、42.6%の建物が築 40 年以上経過するなど、老朽化が進んでいます。(市では、施設の目標耐用年数を原則として建設後 60 年としています。)

「厚木市公共施設最適化基本計画」で行った試算では、2015(平成 27)年度から 2054(令和 36)年度までの 40 年間における学校施設の建て替えに伴う更新費用は約 725 億円、維持管理・修繕に係る費用は約 103 億円、合計で約 828 億円が必要となる見込みとなりました。

今後、建て替え等の費用を削減・平準化しながら、将来にわたって子どもたちの学校生活における安全を確保するとともに、これからの教育活動に対応できる教育環境を整えていくため、長期的な視点から建て替えあるいは改修する学校施設の規模や優先順位を精査し、計画的に建て替え等を実施していく必要があります。

図4 建設後 60 年(目標耐用年数)を迎える建物(棟)数の推移】



★次ページからアンケート調査の設問になります。

I あなた(御回答者)とお子様について

問1: あなたがお住いの住所の郵便番号を記入してください。(数字を記入)

			—				
--	--	--	---	--	--	--	--

※郵便番号がわからない方は、お住いの住所(町名)を御記入ください。

(町名:) 【例】(町名: 中町)

問2: 本調査票を持ち帰ったお子様の学年に○をつけてください。(「○」は一つ)

(1) 小学校6年生	(2) 中学校3年生
------------	------------

問3: 本調査票を持ち帰ったお子様が通学している学校名に○をつけてください。
(「○」は一つ)

【小学校】

(1) 厚木小学校	(2) 依知南小学校	(3) 北小学校
(4) 荻野小学校	(5) 三田小学校	(6) 清水小学校
(7) 小鮎小学校	(8) 玉川小学校	(9) 南毛利小学校
(10) 相川小学校	(11) 厚木第二小学校	(12) 緑ヶ丘小学校
(13) 戸室小学校	(14) 愛甲小学校	(15) 妻田小学校
(16) 鳶尾小学校	(17) 毛利台小学校	(18) 上荻野小学校
(19) 飯山小学校	(20) 森の里小学校	(21) 依知小学校
(22) 戸田小学校	(23) 上依知小学校	

【中学校】

(1) 厚木中学校	(2) 依知中学校	(3) 荻野中学校
(4) 睦合中学校	(5) 小鮎中学校	(6) 玉川中学校
(7) 南毛利中学校	(8) 東名中学校	(9) 林中学校
(10) 藤塚中学校	(11) 森の里中学校	(12) 睦合東中学校
(13) 相川中学校		

II 小・中学校の学級数について

問4: 本調査票を持ち帰ったお子様が所属する学年は何学級(何クラス)あるか教えてください。(「○」は一つ)

(1) 1学級	(2) 2学級	(3) 3学級
(4) 4学級	(5) 5学級	(6) 6学級
(7) 7学級	(8) わからない	

問5: 国の規則では、小・中学校の1学年当たりの標準となる学級数について、次のとおり定めています。

区分	1学年当たりの標準となる学級数
小学校	2～3学級
中学校	4～6学級

1学年当たりの学級数が標準より少ない小規模な学校と、標準より多い大規模な学校のメリット・デメリットについて、あなたのお考えをお聴かせください。

(調査項目ごとに、あなたのお考えに近いものを「○」三つまで)

【小規模な学校のメリット】

- (1) 児童・生徒の人間関係が深まりやすい
- (2) 学校行事や部活動等で一人一人の発表や活躍の機会が多くなりやすい
- (3) 異学年間の教育・交流活動の機会が多くなりやすい
- (4) 教員の目が届きやすく、きめ細かな指導を受けやすい
- (5) ICT 機器などの授業で使用する教材や教具が一人一人に行き渡りやすい
- (6) 学校と保護者・地域住民が連携した教育活動を展開しやすい
- (7) 当てはまるものはない(メリットを感じない)

【小規模な学校のデメリット】

- (1) クラス替えが困難なことなどから、児童・生徒の人間関係や相互の評価などが固定化しやすい
- (2) 多様な考え方に触れる機会や学びあいの機会、切磋琢磨する機会が少なくなりやすい
- (3) 運動会や文化祭などの集団活動や学校行事に制約が生じやすい
- (4) 習熟度別学習やグループ学習など多様な学習形態がとりにくい
- (5) 部活動等の設置が限定され、選択の幅が狭まりやすい
- (6) PTA 活動等における保護者一人当たりの負担が大きくなりやすい
- (7) 当てはまるものはない(デメリットを感じない)

【大規模な学校のメリット】

- (1) 豊かな人間関係の構築や多様な集団の形成が図られやすい
- (2) 多様な考え方に触れる機会や学びあいの機会、切磋琢磨する機会が多くなりやすい
- (3) 運動会や文化祭などの集団活動や学校行事に活気が生じやすい
- (4) 習熟度別学習やグループ学習など多様な学習形態がとりやすい
- (5) 様々な種類の部活動等の設置が可能となり、選択の幅が広がりやすい
- (6) PTA 活動等における役割分担などで保護者の負担を分散しやすい
- (7) 当てはまるものはない(メリットを感じない)

【大規模な学校のデメリット】

- (1) 全教職員による児童・生徒一人一人の把握が難しくなりやすい
- (2) 学校行事や部活動等で一人一人の発表や活躍の機会などが少くなりやすい
- (3) 同学年の結びつきが中心となり、異学年交流の機会が少くなりやすい
- (4) 特別教室や体育館、プール等の施設・設備の利用面で、一定の制約がかかりやすい
- (5) 当てはまるものはない(デメリットを感じない)

問2で「(1)小学校6年生」を選んだ保護者の方にお聴きします。

問6-1:今後、人口減少の進行により、小規模な小学校が増えることが予測されますが、1学年当たりの学級数は、何学級が望ましいと思いますか。(「○」は一つ)

※令和2年度の市立小学校の1学年当たりの学級数については、下の資料1を参照してください。

- | | | | | |
|---------|---------|---------|---------|-----------|
| (1) 1学級 | (2) 2学級 | (3) 3学級 | (4) 4学級 | (5) 5学級以上 |
|---------|---------|---------|---------|-----------|

問2で「(2)中学校3年生」を選んだ保護者の方にお聴きします。

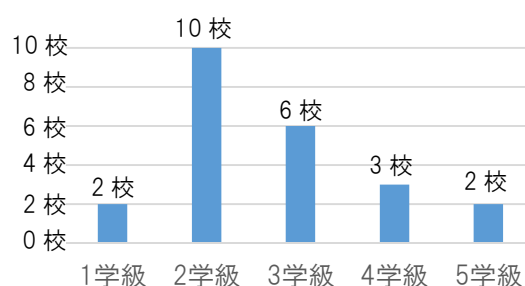
問6-2:今後、人口減少の進行により、小規模な中学校が増えることが予測されますが、1学年当たりの学級数は、何学級が望ましいと思いますか。(「○」は一つ)

※令和2年度の市立中学校の1学年当たりの学級数については、下の資料1を参照してください。

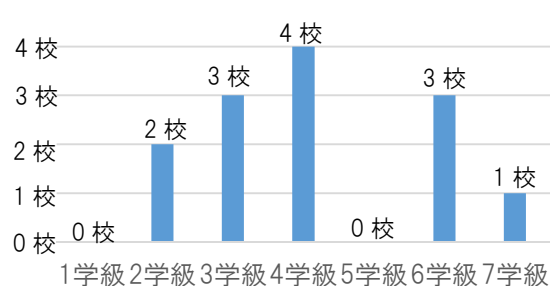
- | | | | |
|---------|---------|-----------|---------|
| (1) 1学級 | (2) 2学級 | (3) 3学級 | (4) 4学級 |
| (5) 5学級 | (6) 6学級 | (7) 7学級以上 | |

【資料1】市立小・中学校の1学年当たりの学級数の分布(令和2年度)

[小学校]



[中学校]



問7:問6-1または問6-2でその学級数を選択した理由をお聴かせください。(「○」三つまで)

- | |
|---|
| (1) 児童・生徒の人間関係が深まりやすい |
| (2) 豊かな人間関係の構築や多様な集団の形成が図られやすい |
| (3) 多様な考え方に触れる機会や学びあいの機会、切磋琢磨する機会が多くなりやすい |
| (4) 異学年間の教育・交流活動の機会が多くなりやすい |
| (5) 学校行事や部活動等で一人一人の発表や活躍の機会などが多くなりやすい |
| (6) 教員の目が届きやすく、きめ細かな指導を受けやすい |
| (7) 習熟度別学習やグループ学習など多様な学習形態がとりやすい |
| (8) 運動会や文化祭などの集団活動や学校行事に活気が生じやすい |
| (9) 様々な種類の部活動等の設置が可能となり、選択の幅が広がりやすい |
| (10) ICT 機器などの授業で使用する教材や教具が一人一人に行き渡りやすい |
| (11) 学校と保護者・地域住民が連携した教育活動を展開しやすい |
| (12) PTA 活動等における役割分担などで保護者の負担を分散しやすい |
| (13) その他() |

Ⅲ 児童・生徒の通学時間や通学方法について

問8:本調査票を持ち帰ったお子様の通学時間に○をつけてください。(「○」は一つ)

- | | | |
|-------------------|-------------------|-------------------|
| (1) 15 分未満 | (2) 15 分以上 30 分未満 | (3) 30 分以上 45 分未満 |
| (4) 45 分以上 60 分未満 | (5) 60 分以上 | |

問9:本調査票を持ち帰ったお子様の通学方法に○をつけてください。(「○」は一つ)

- | | |
|----------|---------------|
| (1) 徒歩のみ | (2) 公共交通機関を利用 |
| (3) その他(|) |

問2で「(1)小学校6年生」を選んだ保護者の方にお聴きします。

問 10-1:児童の片道の通学時間は、どのくらいの時間までが許容範囲だと思いますか。(「○」は一つ)

※国では、通学時間について「おおむね1時間以内」を一応の目安とするとして
います。

- | | | |
|------------|------------------|------------|
| (1) 15 分未満 | (2) 30 分未満 | (3) 45 分未満 |
| (4) 60 分未満 | (5) 60 分以上も許容できる | |

問2で「(2)中学校3年生」を選んだ保護者の方にお聴きします。

問 10-2:生徒の片道の通学時間は、どのくらいの時間までが許容範囲だと思いますか。(「○」は一つ)

※国では、通学時間について「おおむね1時間以内」を一応の目安とするとして
います。

- | | | |
|------------|------------------|------------|
| (1) 15 分未満 | (2) 30 分未満 | (3) 45 分未満 |
| (4) 60 分未満 | (5) 60 分以上も許容できる | |

問 11:問 10-1または問 10-2でお答えいただいた通学時間の範囲を超える場所に学校が立地していると仮定した場合、児童・生徒が通学するために、どのような配慮が必要だと思いますか。(「○」二つまで)

- | | |
|---------------------------|---|
| (1) 公共交通機関(バスなど)の利用を認める | |
| (2) スクールバスを運行する | |
| (3) 自転車での通学を認める | |
| (4) 住所から近い場所にある学校への通学を認める | |
| (5) 徒歩で構わない | |
| (6) その他(|) |

Ⅳ 学校施設の老朽化について

問 12:5ページにもあるとおり、市の学校施設の老朽化が進行しています。学校施設の老朽化によって発生する問題のうち、重要な問題は何だと思いますか。

(「○」二つまで)

- (1) 災害の発生時に施設が壊れやすくなる可能性があるなど、児童・生徒の安全が確保できなくなる恐れがある
- (2) 施設が建設当時の考え方で設計されているため、教育内容・方法の変化に対応できず、児童・生徒の教育環境を充実させることが難しくなる
- (3) 雨漏りや設備の故障などにより、学校生活に支障をきたす恐れがある
- (4) 災害の発生時に地域の避難施設として使用できなくなる恐れがある
- (5) 児童・生徒の登校意欲が低下する恐れがある。
- (6) その他()

問 13:人口減少と学校施設の老朽化が進行している状況において、限られた財源の中で学校施設の安全を確保するとともに、未来の教育活動に対応できるよう教育環境を充実させていくためには、どのような考え方で建て替えを進める必要があると思いますか。(「○」は一つ)

- (1) 現在の学校数を維持するため、経費は増えても、全ての学校を建て替える
- (2) 将来の児童・生徒数を見据え、経費も考慮し、地域ごとに建て替える学校を決めて、建て替える
- (3) 経費を増やさないことを重視し、一部建替えなど、最小限度の範囲で建て替える
- (4) その他()

Ⅴ 学校の適正規模・適正配置の検討について

問 14:学校の適正規模・適正配置の検討に当たり、児童・生徒の教育活動や通学などについて、特に配慮が必要だと思われる点があれば、御記入ください。

(特にない場合、記入は不要です。)

設問は以上です。御協力ありがとうございました。

※本調査票は、無記名のまま8月4日(火)までに調査票を持ち帰ったお子様の学級に御提出ください。(アンケートフォームで回答いただいた場合、調査票の提出は不要です。)

教職員の皆様の御意見をお聴かせください

厚木市立小・中学校の教育環境に関するアンケート調査票

- ・厚木市教育委員会では、将来的な児童・生徒数の減少や学校施設の老朽化に対応しながら、児童・生徒がより良い教育環境で学ぶことができるようにするため、令和2年7月に「厚木市立小中学校適正規模等検討委員会（以下、「委員会」という。）」を設置し、学校の統廃合を含め、学校の適正規模（学級数等）や適正配置（通学距離・時間等）について検討を進めています。

※児童・生徒数の減少や学校施設の老朽化については、2～4ページを御覧ください。

- ・委員会は、PTA や自治会、市立小・中学校長の代表、学識経験者、公募の市民の皆様で構成し、様々な視点から検討を進めていきますが、教職員の皆様の学校規模等に関するお考え方や意識を把握し、委員会での議論を充実させるとともに、今後の検討における基礎資料とすることを目的に、アンケート調査を実施させていただくこととしました。

- ・調査は無記名であり、全て統計的に処理するため、回答者が特定されることはありません。また、他の目的には一切使用いたしませんので、お考えのままを御回答ください。

- ・お忙しいところ誠に恐縮ですが、調査の主旨を御理解いただき、ぜひ調査に御協力いただきますようお願い申し上げます。

令和2年7月

厚木市教育委員会

■回答する上での注意点

- ① 回答対象者は全市立小・中学校(36校)の次の教職員の皆様になります。

小学校	校長先生、教頭先生、6学年の学年主任の先生 計3人
中学校	校長先生、教頭先生、3学年の学年主任の先生 計3人

- ② アンケートは、下記URLのアンケートフォームから回答する方式になります。
8月4日(火)までにアンケートフォームから回答ください。

【アンケートフォーム URL】

https://dshinsei.e-kanagawa.lg.jp/142123-u/offer/offerList_detail.action?tempSeq=6979

- ③ 回答に迷う場合には、御自身のお考えにできるだけ近いものをお選びください。
- ④ アンケートに関するお問い合わせは、下記の問い合わせ先まで御連絡ください。

【問い合わせ先】

厚木市教育委員会 教育総務課 教育企画係
電話：046-225-2663

市立小・中学校をとりまく状況について

1 児童・生徒数等の推移と将来推計について

厚木市では、1970(昭和45)年代以降、児童・生徒数が大幅に増加しました。

その後、児童数は1982(昭和57)年の19,392人、生徒数は、1987(昭和62)年の10,334人をピークとし、以降は一時的に増加した期間はあるものの、おおむね減少が続いています。

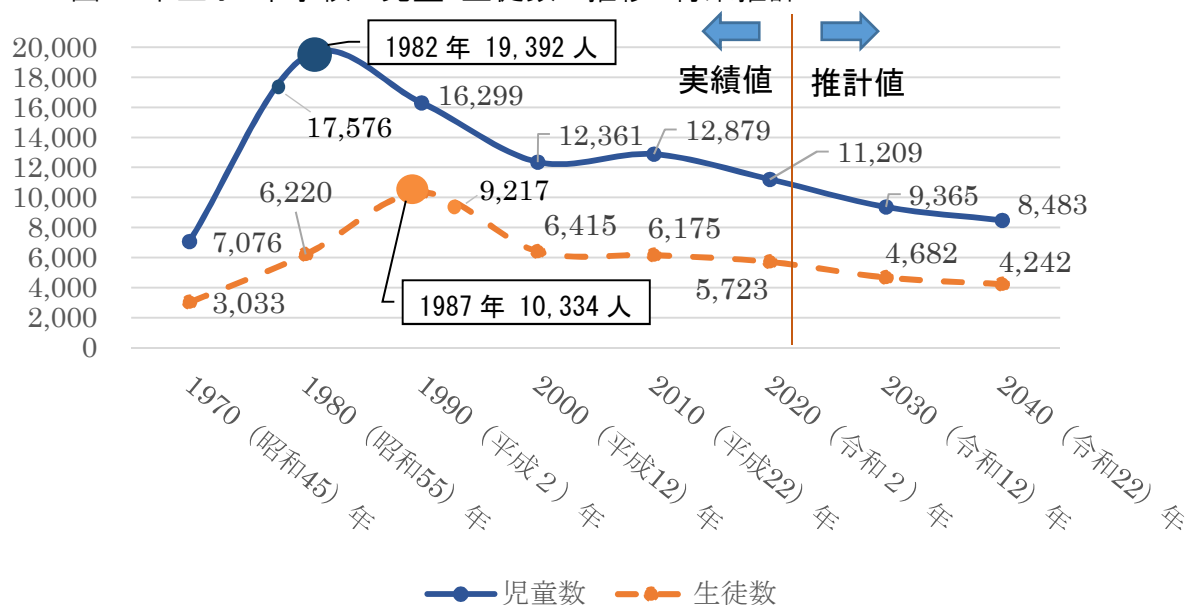
2020(令和2)年度の児童数は11,209人、生徒数は5,723人となっており、ピーク時と比較すると、児童数は約8,200人(△42%)、生徒数は約4,600人(△45%)減少しています。

学級数については、おおむね児童・生徒数の推移に合わせ、増減していますが、最近の傾向として、通常学級が減少する一方、特別支援学級は増加傾向にあります。

将来推計では、今後も児童・生徒数は減少が続き、2040(令和22)年には、児童数は8,483人、生徒数は4,242人となり、2020年度と比較すると、児童数は約2,700人(△24%)、生徒数は約1,500人(△26%)減少することが見込まれています。

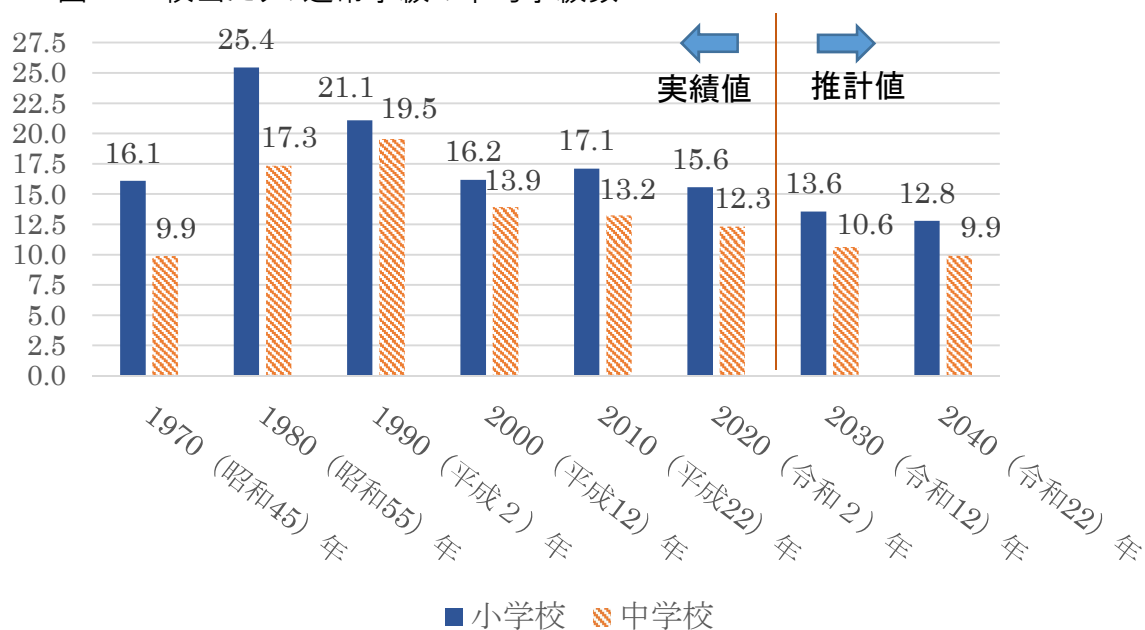
このため、人口減少社会における児童・生徒の教育環境について、長期的な視点をもって検討を進めていく必要があります。

図1 市立小・中学校の児童・生徒数の推移と将来推計



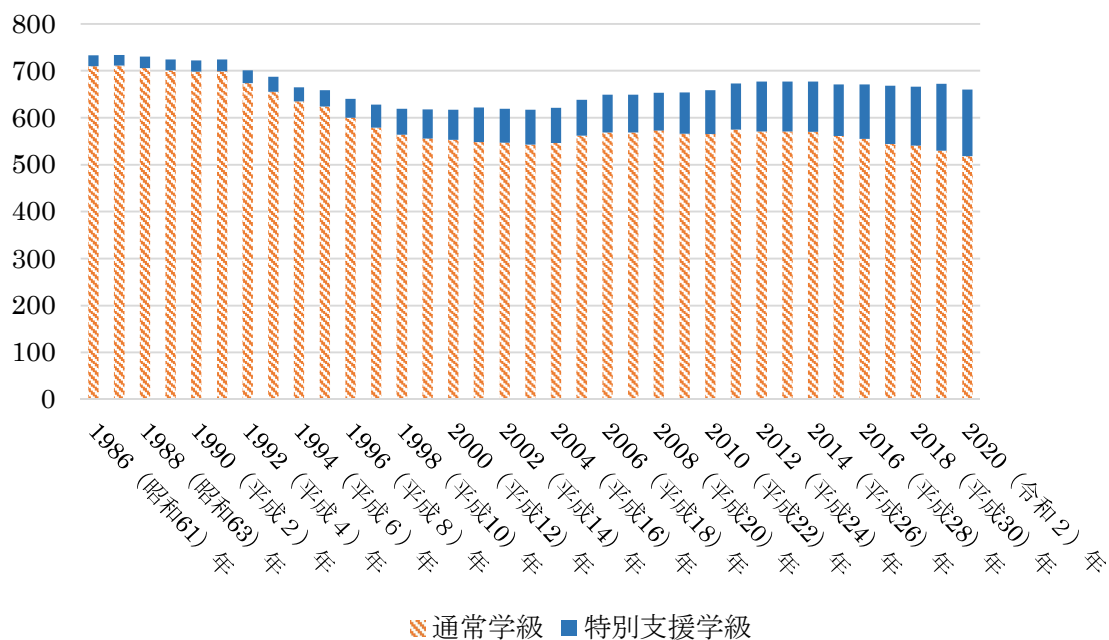
※児童・生徒数の将来推計値は、国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口(平成30(2018)年推計)」の値から、児童・生徒対象年齢区分を按分して算出。

図2 一校当たりの通常学級の平均学級数



※学級数の推計値は、小学校1～3年は35人につき1学級。小学校4年～6年及び中学校は40人につき1学級で算出

図3 通常学級と特別支援学級数の推移



2 学校施設をとりまく状況について

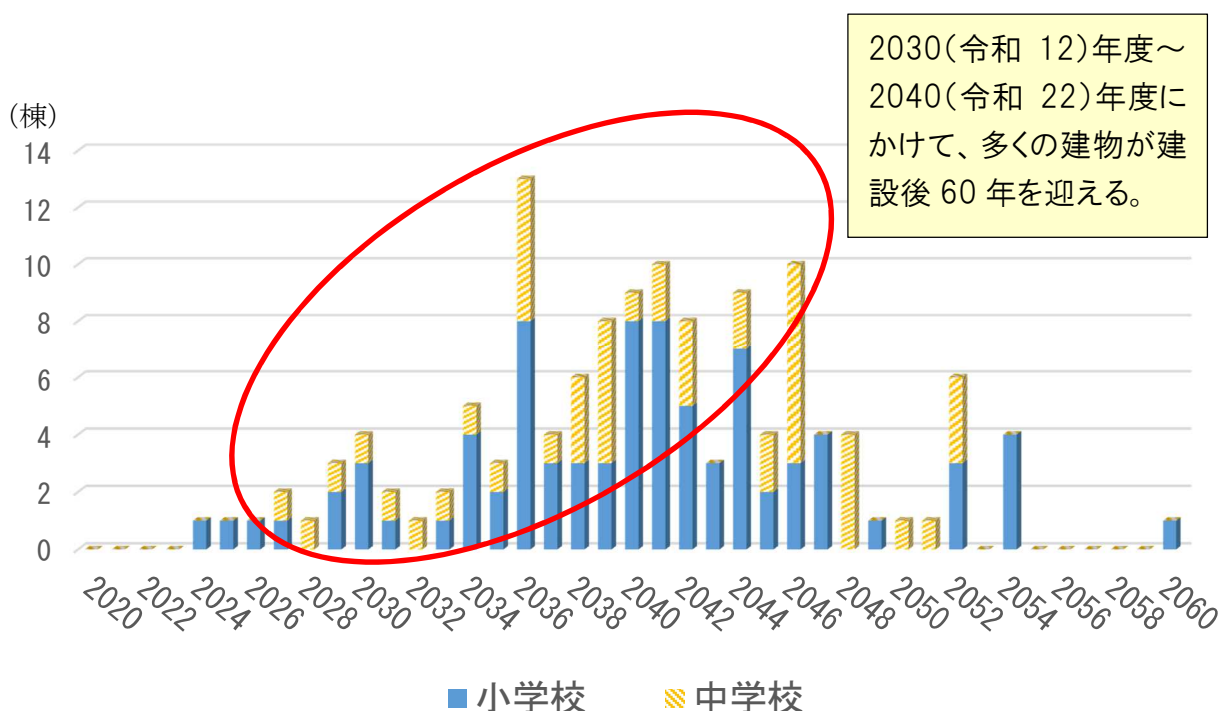
市立小・中学校は、昭和 40 年代後半から児童・生徒数の増加と共に整備が進み、現在、本市には小学校 23 校、中学校 13 校の合計 36 校(155 棟)が整備されています。

学校施設は、本市が保有している公共建築物における床面積の約半分を占めており、また、令和2年度現在、42.6%の建物が築 40 年以上経過するなど、老朽化が進んでいます。(市では、施設の目標耐用年数を原則として建設後 60 年としています。)

「厚木市公共施設最適化基本計画」で行った試算では、2015(平成 27)年度から 2054(令和 36)年度までの 40 年間における学校施設の建て替えに伴う更新費用は約 725 億円、維持管理・修繕に係る費用は約 103 億円、合計で約 828 億円が必要となる見込みとなりました。

今後、建て替え等の費用を削減・平準化しながら、将来にわたって子どもたちの学校生活における安全を確保するとともに、これからの教育活動に対応できる教育環境を整えていくため、長期的な視点から建て替えあるいは改修する学校施設の規模や優先順位を精査し、計画的に建て替え等を実施していく必要があります。

図4 建設後 60 年(目標耐用年数)を迎える建物(棟)数の推移】



★次ページからアンケート調査の設問になります。

設問を読みながらWEBフォームで回答をお願いします。

I あなたについて

問1:あなたが勤務している学校の区分を選択してください。

問2:あなたが勤務している学校名を選択してください。

問3:あなたの役職等を選択してください。

問4:これまでにあなたが国の規則で定める標準より少ない学級数(1校当たり11学級以下)の学校で勤務した経験の有無を選択してください。

問5:これまでにあなたが国の規則で定める標準より多い学級数(1校当たり19学級以上)の学校で勤務した経験の有無を選択してください。

II 小・中学校の学級数について

問6:国の規則では、小・中学校の1学年当たりの標準となる学級数について、次のとおり定めています。

区分	1学年当たりの標準となる学級数
小学校	2～3学級
中学校	4～6学級

1学年当たりの学級数が標準より少ない小規模な学校と、標準より多い大規模な学校のメリット・デメリットについて、あなたのお考えをお聴かせください。

(調査項目ごとに、あなたのお考えに近いものを「○」三つまで)

【小規模な学校のメリット】

- (1) 児童・生徒の人間関係が深まりやすい
- (2) 学校行事や部活動等で一人一人の発表や活躍の機会などが多くなりやすい
- (3) 異学年間の教育・交流活動の機会が多くなりやすい
- (4) 教員の目が届きやすく、きめ細かな指導を受けやすい
- (5) ICT 機器などの授業で使用する教材や教具が一人一人に行き渡りやすい
- (6) 学校と保護者・地域住民が連携した教育活動を展開しやすい
- (7) 当てはまるものはない(メリットを感じない)

【小規模な学校のデメリット】

- (1) クラス替えが困難なことなどから、児童・生徒の人間関係や相互の評価などが固定化しやすい
- (2) 多様な考え方に触れる機会や学びあいの機会、切磋琢磨する機会が少くなりやすい
- (3) 運動会や文化祭などの集団活動や学校行事に制約が生じやすい
- (4) 習熟度別学習やグループ学習など多様な学習形態がとりにくい
- (5) 部活動等の設置が限定され、選択の幅が狭まりやすい
- (6) PTA 活動等における保護者一人当たりの負担が大きくなりやすい
- (7) 当てはまるものはない(デメリットを感じない)

【大規模な学校のメリット】

- (1) 豊かな人間関係の構築や多様な集団の形成が図られやすい
- (2) 多様な考え方に触れる機会や学びあいの機会、切磋琢磨する機会が多くなりやすい
- (3) 運動会や文化祭などの集団活動や学校行事に活気が生じやすい
- (4) 習熟度別学習やグループ学習など多様な学習形態がとりやすい
- (5) 様々な種類の部活動等の設置が可能となり、選択の幅が広がりやすい
- (6) PTA 活動等における役割分担などで保護者の負担を分散しやすい
- (7) 当てはまるものはない(メリットを感じない)

【大規模な学校のデメリット】

- (1) 全教職員による児童・生徒一人一人の把握が難しくなりやすい
- (2) 学校行事や部活動等で一人一人の発表や活躍の機会などが少なくなりやすい
- (3) 同学年の結びつきが中心となり、異学年交流の機会が少くなりやすい
- (4) 特別教室や体育館、プール等の施設・設備の利用面で、一定の制約がかかりやすい
- (5) 当てはまるものはない(デメリットを感じない)

問7:小規模な学校と、大規模な学校における学校運営上の課題について、あなたのお考えをお聴かせください。

(調査項目ごとに、あなたのお考えに近いものを「○」三つまで)

【小規模な学校における学校運営上の課題】

- (1) 教職員数が少ないため、経験、教科、特性などの面でバランスのとれた配置を行いにくい
- (2) 教職員同士が切磋琢磨する環境を作りにくく、指導技術の相互伝達や人材育成がなされにくい
- (3) 教職員一人当たりの校務負担や学校行事に関する負担が重くなりやすい
- (4) 清掃や校内の環境整備等への対応が追いつかなくなりやすい
- (5) 部活動等の指導者を確保することが難しくなりやすい
- (6) 教職員の出張や研修等の調整が難しくなりやすい
- (7) 校外学習でのバス代や卒業アルバム作成費用などで、児童・生徒一人一人の負担が大きくなりやすい
- (8) 当てはまるものはない(特に課題とは感じない)

【大規模な学校における学校運営上の課題】

- (1) 児童・生徒や教職員が多く、管理する職員が行うマネジメントが難しくなりやすい
- (2) 教職員相互の連絡調整や共通理解を図ったりする上で支障が生じやすい
- (3) 災害など緊急な事態が発生した場合における臨機応変な対応が難しくなりやすい
- (4) 特別教室や体育館、プール等の施設・設備の利用に当たり、授業の割り当てや調整が難しくなりやすい
- (5) ICT 機器などの授業で使用する教材や教具を児童・生徒一人一人にいきわたらせることが難しくなりやすい
- (6) 保護者や地域住民との連携が難しくなりやすい
- (7) 当てはまるものはない(特に課題とは感じない)

問1で「小学校」を選んだ教職員の方にお聴きします。

問8-1:今後、人口減少の進行により、小規模な小学校が増えることが予測されますが、1学年当たりの学級数は、何学級が望ましいと思いますか。(「○」は一つ)

※令和2年度の市立小学校の1学年当たりの学級数については次ページの資料1を参照してください。

- | | | | | |
|---------|---------|---------|---------|-----------|
| (1) 1学級 | (2) 2学級 | (3) 3学級 | (4) 4学級 | (5) 5学級以上 |
|---------|---------|---------|---------|-----------|

問1で「中学校」を選んだ教職員の方にお聴きします。

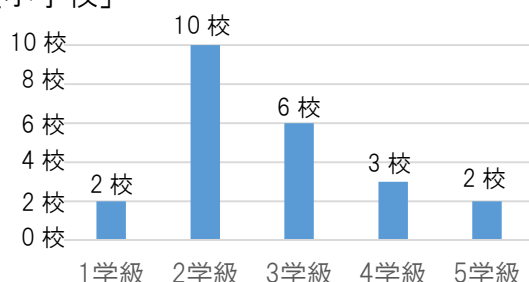
問8-2:今後、人口減少の進行により小規模な中学校が増えることが予測されますが、1学年当たりの学級数は、何学級が望ましいと思いますか。(「○」は一つ)

※令和2年度の市立中学校の1学年当たりの学級数については下の資料1を参照してください。

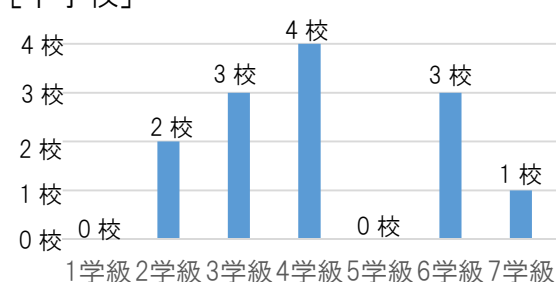
- | | | | |
|---------|---------|-----------|---------|
| (1) 1学級 | (2) 2学級 | (3) 3学級 | (4) 4学級 |
| (5) 5学級 | (6) 6学級 | (7) 7学級以上 | |

【資料1】市立小・中学校の1学年当たりの学級数の分布(令和2年度)

[小学校]



[中学校]



問9:問8-1または問8-2でその学級数を選択した理由をお聴かせください。(「○」三つまで)

- | |
|---|
| (1) 児童・生徒の人間関係が深まりやすい |
| (2) 豊かな人間関係の構築や多様な集団の形成が図られやすい |
| (3) 多様な考え方に触れる機会や学びあいの機会、切磋琢磨する機会が多くなりやすい |
| (4) 異学年間の教育・交流活動の機会が多くなりやすい |
| (5) 学校行事や部活動等で一人一人の発表や活躍の機会などが多くなりやすい |
| (6) 教員の目が届きやすく、きめ細かな指導を受けやすい |
| (7) 習熟度別学習やグループ学習など多様な学習形態がとりやすい |
| (8) 運動会や文化祭などの集団活動や学校行事に活気が生じやすい |
| (9) 様々な種類の部活動の設置が可能となり、選択の幅が広がりやすい |
| (10) ICT 機器などの授業で使用する教材や教具が一人一人に行き渡りやすい |
| (11) 学校と保護者・地域社会が連携した教育活動を展開しやすい |
| (12) PTA 活動等において役割分担などで保護者の負担を分散しやすい |
| (13) その他() |

Ⅲ 児童・生徒の通学時間や通学方法について

問1で「小学校」を選んだ教職員の方にお聴きします。

問 10-1: 児童の片道の通学時間は、どのくらいの時間までが許容範囲だと思いますか。(「○」は一つ)

※国では、通学時間について「おおむね1時間以内」を一応の目安ととしています。

- | | | |
|------------|------------------|------------|
| (1) 15 分未満 | (2) 30 分未満 | (3) 45 分未満 |
| (4) 60 分未満 | (5) 60 分以上も許容できる | |

問1で「中学校」を選んだ教職員の方にお聴きします。

問 10-2: 生徒の片道の通学時間は、どのくらいの時間までが許容範囲だと思いますか。(「○」は一つ)

※国では、通学時間について「おおむね1時間以内」を一応の目安ととしています。

- | | | |
|------------|------------------|------------|
| (1) 15 分未満 | (2) 30 分未満 | (3) 45 分未満 |
| (4) 60 分未満 | (5) 60 分以上も許容できる | |

問 11: 問 10-1 または 問 10-2 でお答えいただいた通学時間の範囲を超える場所に学校が立地していると仮定した場合、児童・生徒が通学するために、どのような配慮が必要だと思いますか。(「○」二つまで)

- | |
|---------------------------|
| (1) 公共交通機関(バスなど)の利用を認める |
| (2) スクールバスを運行する |
| (3) 自転車での通学を認める |
| (4) 住所から近い場所にある学校への通学を認める |
| (5) 徒歩で構わない |
| (6) その他() |

Ⅳ 学校施設の老朽化について

問 12: 4ページにもあるとおり、市の学校施設の老朽化が進行しています。学校施設の老朽化によって発生する問題のうち、重要な問題は何だと思いますか。(「○」二つまで)

- | |
|---|
| (1) 災害の発生時に施設が壊れやすくなる可能性があるなど、児童・生徒の安全が確保できなくなる恐れがある |
| (2) 施設が建設当時の考え方で設計されているため、教育内容・方法の変化に対応できず、児童・生徒の教育環境を充実させることが難しくなる |
| (3) 雨漏りや設備の故障などにより、学校生活に支障をきたす恐れがある |
| (4) 災害の発生時に地域の避難施設として使用できなくなる恐れがある |
| (5) 児童・生徒の登校意欲が低下する恐れがある。 |
| (6) その他() |

問 13:人口減少と学校施設の老朽化が進行している状況において、限られた財源の中で学校施設の安全を確保するとともに、未来の教育活動に対応できるよう教育環境を充実させていくためには、どのような考え方で建て替えを進める必要があると思いますか。([○]は一つ)

- | |
|--|
| (1) 現在の学校数を維持するため、経費は増えても、全ての学校を建て替える
(2) 将来の児童・生徒数を見据え、経費も考慮し、地域ごとに建て替える学校を決めて、建て替える
(3) 経費を増やさないことを重視し、一部建替えなど、最小限度の範囲で建て替える
(4) その他() |
|--|

V 学校の適正規模・適正配置の検討について

問 14:学校の適正規模・適正配置の検討に当たり、児童・生徒の教育活動や通学などについて、特に配慮が必要だと思われる点があれば、御記入ください。

設問は以上です。御協力ありがとうございました。

市民の皆様の御意見をお聴かせください

厚木市立小・中学校の地域における役割に関するアンケート調査票

- ・厚木市教育委員会では、将来的な児童^{※1}・生徒^{※2}数の減少や学校施設の老朽化^{※3}に対応しながら、児童・生徒がより良い教育環境で学ぶことができるようにするため、令和2年7月に「厚木市立小中学校適正規模等検討委員会（以下、「委員会」という。）」を設置し、学校の統廃合を含め、学校の適正規模（学級数等）や適正配置（通学距離・時間等）について検討を進めています。

※1 本アンケートでは市立小学校に通う小学校1～6年生を指します。

※2 本アンケートでは市立中学校に通う中学校1～3年生を指します。

※3 児童・生徒数の減少や学校施設の老朽化については、3～5ページを御覧ください。

- ・委員会は、PTA や自治会、市立小・中学校長の代表、学識経験者、公募の市民の皆様で構成し、様々な視点から検討を進めていきますが、市立小・中学校は児童・生徒の大切な学びの場であるのはもちろんのこと、災害時の避難施設の役割や学校開放等による地域活動の拠点としての役割もあることから、地域における学校の役割について、幅広い市民の皆様のお考えや意識を把握し、委員会での議論を充実させるとともに、今後の検討における基礎資料とすることを目的に、アンケート調査を実施させていただくこととしました。

- ・本アンケート調査の対象として、18 歳以上の市民の皆様の中から 1,104 人を無作為で抽出し、回答をお願いしております。

- ・調査は無記名であり、全て統計的に処理するため、回答者が特定されることはありません。また、他の目的には一切使用いたしませんので、お考えのままを御回答ください。

- ・お忙しいところ誠に恐縮ですが、調査の主旨を御理解いただき、ぜひ調査に御協力いただきますようお願い申し上げます。

令和2年7月
厚木市教育委員会

■記入する上での注意点

- ① アンケートは、**本調査票**または**下記URLのアンケートフォーム**のいずれかで御回答ください。

【**調査票**で回答する場合】

- (1) 回答は、各設問の選択肢の中から、該当する選択肢に「○」(まる)をつけてください。また、設問によっては文章を御記入ください。
- (2) 回答に迷う場合には、御自身のお考えにできるだけ近いものをお選びください。
- (3) 御記入いただいた調査票は、返信用封筒に封入して、切手を貼らず、8月12日(水)までにポストに入れていただきますようお願いいたします。

【**アンケートフォーム**で回答する場合】

- (1) スマートフォンやパソコンで次のURLにアクセスし、アンケートフォームの該当する選択肢を選んでください。また、設問によっては文章を御入力ください。
- (2) 回答に迷う場合には、御自身のお考えにできるだけ近いものをお選びください。
- (3) 8月12日(水)までに回答をお願いします。なお、アンケートフォームで回答いただいた場合、調査票での回答は不要です。

【アンケートフォーム URL】

<https://cutt.ly/laFGHh9>



←QRコードからも
アンケートフォーム
にアクセスいただけ
ます。

- ② アンケートに関するお問い合わせは、下記の問い合わせ先まで御連絡ください。

【問い合わせ先】

厚木市教育委員会 教育総務課 教育企画係
電話:046-225-2663

市立小・中学校をとりまく状況について

1 児童・生徒数等の推移と将来推計について

厚木市では、1970(昭和45)年代以降、児童・生徒数が大幅に増加しました。

その後、児童数は1982(昭和57)年の19,392人、生徒数は、1987(昭和62)年の10,334人をピークとし、以降は一時的に増加した期間はあるものの、おおむね減少が続いています。

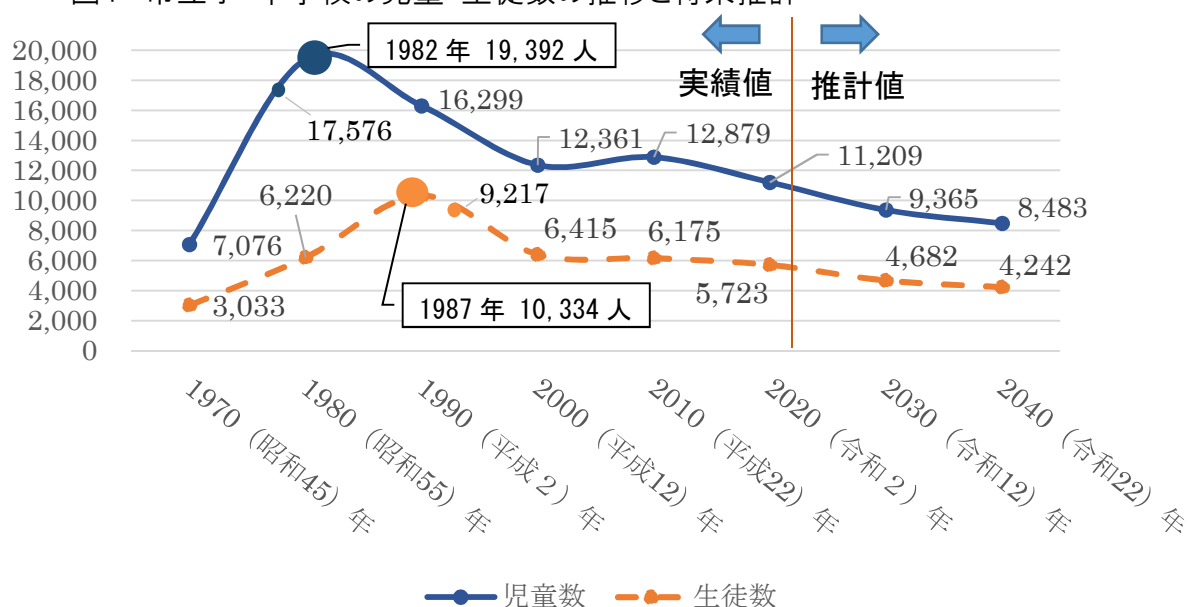
2020(令和2)年度の児童数は11,209人、生徒数は5,723人となっており、ピーク時と比較すると、児童数は約8,200人(△42%)、生徒数は約4,600人(△45%)減少しています。

学級数(クラス数)については、おおむね児童・生徒数の推移に合わせ、増減していますが、最近の傾向として、通常学級が減少する一方、特別支援学級は増加傾向にあります。

将来推計では、今後も児童・生徒数は減少が続き、2040(令和22)年には、児童数は8,483人、生徒数は4,242人となり、2020年度と比較すると、児童数は約2,700人(△24%)、生徒数は約1,500人(△26%)減少することが見込まれています。

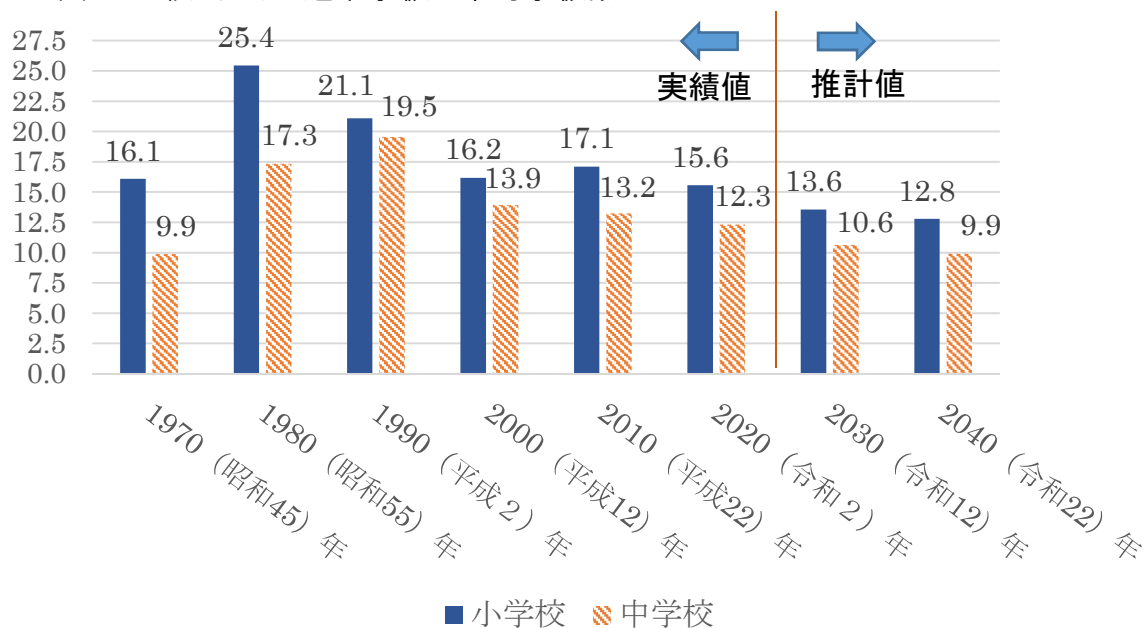
このため、人口減少社会における児童・生徒の教育環境について、長期的な視点をもって検討を進めていく必要があります。

図1 市立小・中学校の児童・生徒数の推移と将来推計



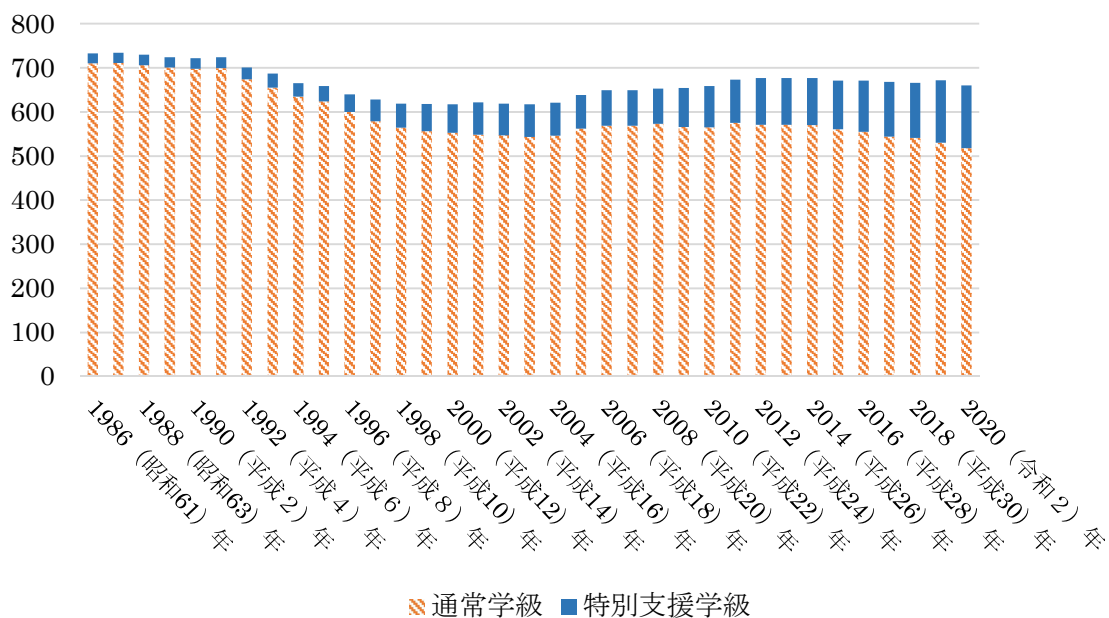
※児童・生徒数の将来推計値は、国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口(平成30(2018)年推計)」の値から、児童・生徒対象年齢区分を按分して算出。

図2 一校当たりの通常学級の平均学級数



※学級数の推計値は、小学校1～3年は35人につき1学級。小学校4年～6年及び中学校は40人につき1学級で算出

図3 通常学級と特別支援学級数の推移



2 学校施設をとりまく状況について

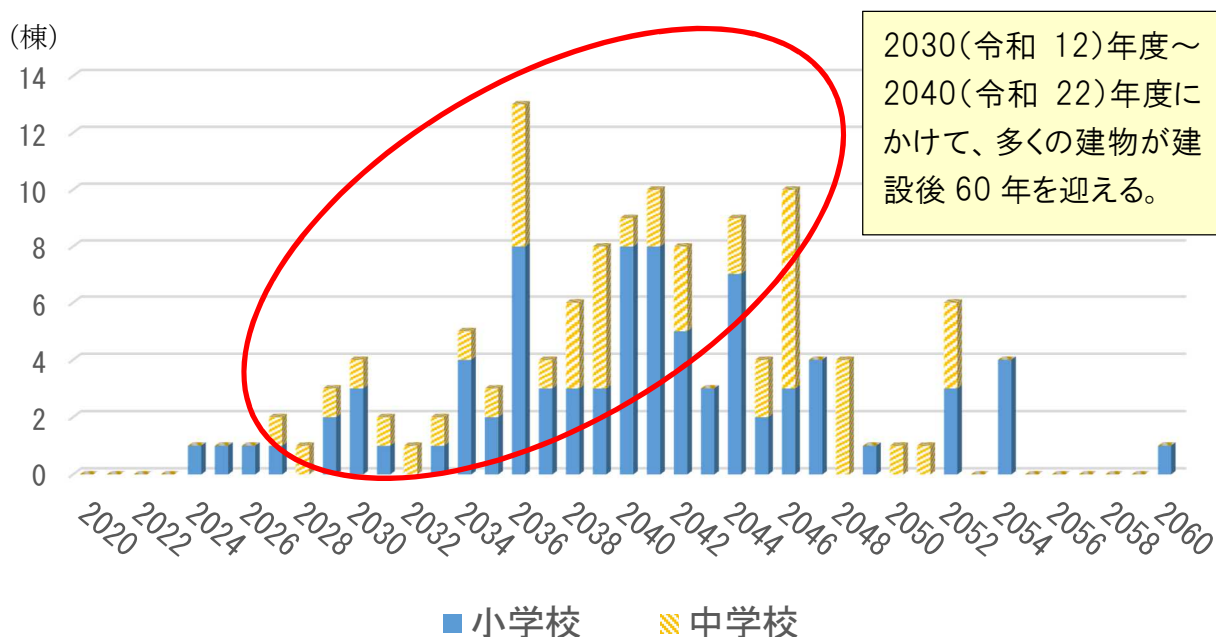
市立小・中学校は、昭和 40 年代後半から児童・生徒数の増加と共に整備が進み、現在、本市には小学校 23 校、中学校 13 校の合計 36 校(155 棟)が整備されています。

学校施設は、本市が保有している公共建築物における床面積の約半分を占めており、また、令和2年度現在、42.6%の建物が築 40 年以上経過するなど、老朽化が進んでいます。(市では、施設の目標耐用年数を原則として建設後 60 年としています。)

「厚木市公共施設最適化基本計画」で行った試算では、2015(平成 27)年度から 2054(令和 36)年度までの 40 年間における学校施設の建て替えに伴う更新費用は約 725 億円、維持管理・修繕に係る費用は約 103 億円、合計で約 828 億円が必要となる見込みとなりました。

今後、建て替え等の費用を削減・平準化しながら、将来にわたって子どもたちの学校生活における安全を確保するとともに、これからの教育活動に対応できる教育環境を整えていくため、長期的な視点から建て替えあるいは改修する学校施設の規模や優先順位を精査し、計画的に建て替え等を実施していく必要があります。

図4 建設後 60 年(目標耐用年数)を迎える建物(棟)数の推移】



★次ページからアンケート調査の設問になります。

I あなた(御回答者)について

問1:あなたが住みの住所の郵便番号を記入してください。(数字を記入)

			—				
--	--	--	---	--	--	--	--

※郵便番号がわからない方は、住みの住所(町名)を御記入ください。

(町名:) 【例】(町名: 中町)

問2:あなたの年齢を教えてください。(「○」は一つ)

- | | | |
|-------------|-------------|-------------|
| (1) 20 歳未満 | (2) 20～29 歳 | (3) 30～39 歳 |
| (4) 40～49 歳 | (5) 50～59 歳 | (6) 60～69 歳 |
| (7) 70～79 歳 | (8) 80 歳以上 | |

問3:あなたがこれまで厚木市にお住みの期間を教えてください。(「○」は一つ)

- | | | |
|-------------------|-------------------|-------------------|
| (1) 1 年未満 | (2) 1 年以上 5 年未満 | (3) 5 年以上 10 年未満 |
| (4) 10 年以上 20 年未満 | (5) 20 年以上 30 年未満 | (6) 30 年以上 40 年未満 |
| (7) 40 年以上 50 年未満 | (8) 50 年以上 | |

問4:あなたの世帯に市立小・中学校に在学しているお子様はいますか。

(「○」は一つ)

- | |
|------------------------|
| (1) 市立小学校に在学している子どもがいる |
| (2) 市立中学校に在学している子どもがいる |
| (3) いない |

問5:あなたは過去1年間に市立小・中学校にどれくらいの頻度でいきましたか。

(「○」は一つ)

- | | | |
|-----------|---------------|-------------|
| (1) 週1回以上 | (2) 月1回以上 | (3) 半年に1回以上 |
| (4) 年1回以上 | (5) 1回も行っていない | |

問5で「(1)～(4)」を選んだ方にお聴きします。

問6:あなたは過去1年間に厚木市立小・中学校にどのような理由で行きましたか。

(「○」はいくつでも)

- | |
|---|
| (1) 子どもの見送りやお迎え(例:児童クラブなど) |
| (2) 保護者としての活動(例:PTAなど) |
| (3) 教育活動や放課後活動などのボランティア(例:学習支援ボランティアなど) |
| (4) 学校行事(例:運動会や発表会、授業参観など) |
| (5) 選挙での投票 |
| (6) 災害時(大雨、台風、地震)における避難 |
| (7) 避難訓練などの防災関係活動 |
| (8) 地域(例:町内会・自治会、子ども会など)の会合・行事 |
| (9) 体育館や校庭などを利用した活動(例:スポーツ・文化活動など) |
| (10) 業務上の関係(例:学校で働いている、学校と業務上の関わりがあるなど) |
| (11) その他() |

Ⅱ 地域における学校の役割について

問7:市立小・中学校は児童・生徒の大切な学びの場であるのはもちろんのこと、敷地や建物の面積が大きく、地域における活動拠点としての役割も担っています。

市立小・中学校がこれまで地域で担ってきた役割の中で、特に重要だと考えるものを教えてください。(「○」は五つまで)

- | |
|---------------------------------------|
| (1) 児童・生徒の放課後の居場所・活動場所 |
| (2) 地域防災の拠点 |
| (3) 選挙の投票所 |
| (4) 地域の活動・交流の拠点 |
| (5) スポーツ活動の拠点 |
| (6) 文化活動の拠点 |
| (7) 生涯学習の拠点 |
| (8) 子育て支援の拠点 |
| (9) 高齢者福祉の拠点 |
| (10) 障がい者福祉の拠点 |
| (11) 行政窓口サービス等の拠点 |
| (12) 特に該当するものはない(地域における活動拠点としての認識はない) |
| (13) その他() |

問8:市立小・中学校のこれからの地域における活動拠点としての期待する役割の中で、特に重要だと考えるものを教えてください。(「○」は五つまで)

- (1) 児童・生徒の放課後の居場所・活動場所
- (2) 地域防災の拠点
- (3) 選挙の投票所
- (4) 地域の活動・交流の拠点
- (5) スポーツ活動の拠点
- (6) 文化活動の拠点
- (7) 生涯学習の拠点
- (8) 子育て支援の拠点
- (9) 高齢者福祉の拠点
- (10) 障がい者福祉の拠点
- (11) 行政窓口サービス等の拠点
- (12) 特にない(児童・生徒の学びの場以外の役割は不要)
- (13) その他()

Ⅲ 学校施設の老朽化について

問9:市立小・中学校は地域における活動拠点としての役割も担っていますが、5ページにもあるとおり、施設の老朽化が進行しています。学校施設の老朽化によって発生する問題のうち、重要な問題は何だと思えますか。
(「○」二つまで)

- (1) 災害の発生時に施設が壊れやすくなる可能性があるなど、児童・生徒の安全が確保できなくなる恐れがある
- (2) 施設が建設当時の考え方で設計されているため、教育内容・方法の変化に対応できず、児童・生徒の教育環境を充実させることが難しくなる
- (3) 雨漏りや設備の故障などにより、学校生活に支障をきたす恐れがある
- (4) 災害の発生時に地域の避難施設として使用できなくなる恐れがある
- (5) 児童・生徒の登校意欲が低下する恐れがある
- (6) その他()

問 10:人口減少と学校施設の老朽化が進行している状況において、限られた財源の中で学校施設の安全を確保するとともに、未来の教育活動に対応できるよう教育環境を充実させていくためには、どのような考え方で建て替えを進める必要があると思えますか。(「○」は一つ)

- (1) 現在の学校数を維持するため、経費は増えても、全ての学校を建て替える
- (2) 将来の児童・生徒数を見据え、経費も考慮し、地域ごとに建て替える学校を決めて、建て替える
- (3) 経費を増やさないことを重視し、一部建替えなど、最小限度の範囲で建て替える
- (4) その他()

Ⅳ 学校の適正規模・適正配置の検討について

問 11:学校の適正規模・適正配置の検討に当たり、児童・生徒の教育活動や通学などについて、特に配慮が必要だと思われる点があれば、御記入ください。
(特にない場合、記入は不要です。)

設問は以上です。御協力ありがとうございました。

※本調査票は、返信用封筒に封入して切手を貼らず8月 12 日(水)までにポストに入れてください。(アンケートフォームで回答いただいた場合、調査票での回答は不要です。)

厚木市立小・中学校の適正規模・適正配置に
関するアンケート調査 報告書

令和2年9月発行

発 行 厚木市教育委員会

編 集 厚木市教育委員会教育総務部教育総務課